

これまで書き綴ってきたブログの中で
今、忘れられているゴルフプレーや、
エチケットのことに触れた文章を抜粋
してみました。

ゴルフは 知の芸

嫌われないゴルファーに

なるために

何よりもマナー・エチケット

奈良柳生カントリークラブ 阪口 勇

目次

2010年	
・ ゴルフファッションを考える.....	5
・ ゴルフに関する名言・格言.....	6
2011年	
・ 冬のゴルフはスタート前に十分な準備運動を.....	7
・ メンバーライフをもっと楽しんでください.....	8
・ ゴルフの前日は深酒せず十分な睡眠をとるように.....	9
・ 捻挫、肉離れなどのときは冷やすべきか温めるべきか？.....	10
・ 盛り上がり欠ける「関西オープン」.....	11
・ ゴルフ規則の本質と精神.....	12
・ ソケット、シャンクの打球事故に注意してください.....	13
・ バカの棒振りと賢者の散策、あなたはどっち？.....	14
・ ゴルフルールについて.....	15
・ 貴重品ロッカー荒らしの手口.....	17
・ ルールの基本は「ボールはあるがままにてプレーせよ」.....	18
2012年	
・ ゴルフ振興、まずはゴルフ利用税の撤廃から.....	19
・ 地元で開催する奈良県オープン、もう少し注目を集める工夫を.....	20
・ 酷暑期間の来場時はノージャケットでも結構です.....	21
・ スコアメイクの鍵はパットです.....	23
・ ゴルフのハンディキャップについて.....	25
・ 非公認球、高反発ドライバーは遊びといえども使用すべきでない.....	27
2013年	
・ ゴルフ場利用税廃止は先送り.....	29
・ 月刊ゴルフマネジメント3月号に紹介されました.....	30
・ 注目を集める削り出しの山田パター.....	31
・ 筒井寛昭221世東大寺別当、晋山式.....	32
・ 全米プロシニア制覇した井戸木鴻樹プロ.....	33
・ QT1stのデータから見れば.....	34
・ 日本のゴルフ場数、ゴルフ場利用者数について.....	35

2014年	
・ ゴルフルールで疑問に思うこと	37
・ ゴルフマナーを大切に.....	38
・ スタート前の段取りについて.....	39
・ ボールはあるがままに打て	41
・ 雨傘の取り扱いについて.....	42
・ 英国のリンクスこそゴルフコースの原点	43
・ ゴルフは楽しい、そして面白い.....	44
・ 何ゆえにゴルフは紳士のスポーツといわれるか	45
・ 球聖ボビー・ジョーンズのエピソード.....	46
・ ローカルルールの悪法「前進4打」「6インチプレス」	48
・ 雨の日に思うこと	49
・ ゴルフの和製英語について	50
2015年	
・ ルールをしっかりと身につけよう	51
・ スロープレー問題を考える	52
・ ゴルフに出会えたことに感謝.....	54
・ 同伴者を意識せずパーおじさんに挑む.....	55
・ 真のゴルファーは減った.....	56
・ ゴルフは健康に良いは本当だった	57
・ ゴルフは運動不足、健康維持に最適.....	58
・ ルール違反は勇気をもって指摘しよう	59
・ ゴルフに対する偏見、負のイメージについて.....	60
2016年	
・ スタート前の準備運動は欠かさないように.....	62
・ ゴルフは知的ゲームです	63
・ まず初心者に何を教えるか?	64
・ 打ち込み厳禁、もし打ち込んだ時の謝罪は.....	65
・ 夏のゴルフは水分補給をこまめに	66
・ ゴルフの基本は本人の直感.....	67
・ 短パンにハイソックス着用?	68
・ 言い訳ほど見苦しいものはありません.....	69
・ ゴルファーとして当然のエチケット.....	70
・ ゴルフはマナー・エチケットが何よりも優先されます	71

・ 利用税撤廃阻止より代替財源を要求すべし.....	72
・ ゴルフは生涯スポーツです	73
・ ゴルフが上手い下手よりも人柄・人間性	74
2017年.....	
・ 今年のゴルフの目標は?	75
・ 今日も積雪クローズになりました	76
・ 女子プロツアー、いよいよ明日から開幕	77
・ 2019年施行のルール改正案.....	78
・ 2019年施行のルール改正について	79
・ ゴルフクラブは会員共有のコミュニティー.....	80
・ ゴルフ場のクールビズ.....	81
・ 打球事故に注意してください.....	82
・ 初心者には厳しいルールよりゴルフの楽しさを	83
・ 初心者ゴルファーの指導は段階を経て	85
・ 団塊シニアに依存するゴルフ業界	86
・ 「握り」はプレーのいい刺激剤.....	87
・ 偉大なゴルファー赤星六郎の名言	88
・ 秋が深まってきました.....	89
・ トランプ大統領のゴルフ外交.....	90
・ ゴルフ外交は倫理規定に抵触はしない?	91
・ ジョチュー（自己中）ゴルファー増殖中	92
・ 認知症予防・老化防止のためにもゴルフを.....	93
・ ゴルフには感性が大事です	94
2018年.....	
・ 回りたくない人になってませんか?	95
・ 深夜から降り続く無情の雨に思う	96
・ KGUの公式競技でもセルフプレー化に	97
・ 一流は一流を知る	98
・ ゴルフには変わらぬ伝統的精神がある	99
・ 体調を整えてゴルフをしてください.....	100
・ 昼食の注文の品が違っていたら	101
・ 夏に向かい暑さ対策が必要です	102
・ 日本一距離の長いコースで熱戦が展開	103
・ ゴルフ振興策について.....	104

2019年	
・ゴルフクラブの性能向上について	106
・立証されているゴルフは健康に良い.....	107
・もっと気軽に短時間でゴルフが楽しめないものか.....	108
・浅地洋祐選手、初優勝おめでとう	109
・気のおけないゴルフ仲間を増やそう.....	110
・試合観戦もゴルファーらしく品格をもって.....	112
・環境汚染の元凶プラスチックごみ	113
・ゴルフが楽しくなるカジュアルティー設置.....	115
・クラブ14本は多すぎませんか.....	116
・ゴルフ振興策を考える.....	118
・ゴルフ場利用税廃止の声を	119
・ゴルファーは誠実で正直でなければならない.....	121
・マナーにはその人の人格が表れる	123
・ゴルフはスポーツか遊びか	125
2020年	
・ゴルフは知的スポーツ.....	126
・ゴルフは難しく奥行きが広い.....	127
・ゴルフ場は地球温暖化防止に寄与してます.....	128
・飛距離制限をR&AとUSGAが検討し始める	129

ゴルフファッションを考える

石川遼や宮里藍選手の活躍で若い人たちがゴルフに興味を持ってきている。町の打球場は、まさしく“老若男女”で賑わっている。業界人としては誠に喜ばしいことです。

一方、若い人はゴルフ場を単なるスポーツ施設で、社交場であるという認識は薄い。このため調和、協調性に欠ける行為が目立ちます。

その一つにドレスコード問題があります。おしゅれは個性という若者が多く、破れたツギハギだらけのジーンズがビンテージ物として10数万円を払ったり、何万円もするTシャツを着たり、世代による価値観のギャップは大きい。かつて石川遼選手がカーゴパンツをはいて物議を醸したことがありました。ファッション的には全くおかしくないと思いましたが……。伝統を重んじる閉鎖的かつ保守的のゴルフクラブでは奇怪であり、違和感を覚えるのでしょう。

ゴルフクラブに集うメンバーの多くは50歳以上の年配者が多い。こうした人が不快と思うようなファッションはやはり“ノー”なのです……。が、いずれの時代もファッションは個性、バイタリティに富む若者がリードしてきました。

ゴルフには、ゴルフをするためのこれがユニフォームというものはありません。100年前のゴルフファッションはまさしくネクタイにスーツ、このいでたちでズボンの裾が邪魔になるためニッカボッカになったのです。しかも革靴。バンカーに入って砂がはいるので革靴の紐の部分に覆う砂よけがついたりしたのです。

今はジーンズ、ジャージー以外のスラックスなら大体OK。上着もTシャツや肌着以外、ポロシャツ、セーターであればOKとなっています。

野球のユニフォームもストッキングが隠れただぼだぼのスラックスが常識化しており、テニスのウェアも白以外は駄目だといわれていましたが、今やカラフルな色彩のウェアが一般的になりました。

こうしたスポーツのユニフォームも時代とともに変遷してきました。定型的なユニフォームがないゴルフのファッションがいつまで若者の個性豊かなファッションを封じ込められるか……。考えさせられます。

ゴルフに関する名言・格言

よく「ゴルフは紳士のスポーツ」といわれます。紳士（ジェントルマン）とは上品で礼儀正しい人のことですが、「ゴルフは紳士のスポーツ」ではなく「ゴルフをしているうちに立派な紳士になる」のがゴルフというスポーツだと思います。

ゴルフの名言・格言は紳士の振る舞いを求めるものが多い。

例えば

- 紳士は春風の如くおおらかであれ、威張るのは知性の欠如だ。
- 相手の身になって物事を考えよ。みっともない真似はするな。
- 着くべき時間に着かないのは遅刻である。
- 易きに走らないノータッチ主義こそゴルフだ。
- 何を着て来たかに人となりが見れる。
- ゴルファー諸君、舌を噛み切っても女々しい言い訳だけはするな。

私の手帳に記載している中から6つほどピックアップして紹介しましたが、名言・格言は数限りなくあります。皆さんもこうした名言・格言に出会うことが多いと思います。プレー中、トラブルに見舞われた時や逆に好スコア続出の絶好調の時に、ふと自分の振る舞いが紳士に足る行いであるかどうか見つめていただければ……。

最後にエッセイストの夏坂健氏と鈴木康之氏の文章を紹介しておきましょう。

夏坂健氏は「もっと楽しく、もっと正しく、己に有利に振る舞わない。ゴルフを通して人生を学ぼう」といわれています。

また鈴木康之氏は「アマチュアのゴルフは社交のゲームである。技量よりも先にだいたいなものがある。それさえあれば大丈夫、それがないと困る、というものがある。自分の愉快、不愉快を考える前に人の愉快、不愉快に気づくこと。これが私たちのゴルフにおけるだいたいな順番である。」と。

冬のゴルフはスタート前に十分な準備運動を

このブログでも何度かゴルフをスタートする前の準備運動やストレッチを十分に行うように書いてきましたが、具体的な運動方法については説明してませんでした。そこでかかりつけの整形外科の先生に、寒い冬のスタート前のウォーミングアップの方法などを教えてもらいましたので、ご紹介します。

気温が低い冬のゴルフは肉離れやアキレス腱、じん帯を傷めたり、肘や首、さらには腰を痛めたりすることが多いようです。こうした予防のためには必ずスタート前に準備運動、ウォーミングアップが必要です。月に1回程度のゴルファーなら、なおさらスタート前のウォーミングアップが大事です。しかも40歳以上の体の固くなった年配者にとっては十分な時間をとってやって下さいとのこと。

まずウォーミングアップの基本である全身の筋肉や関節を温める前に、軽くラジオ体操をして体全体を温めてほぐすこと。それから筋肉や関節をストレッチして下さい。手首を軽くぶらぶらさせたり、首を前後左右に動かしてから軽く右、左に首を回す。腕を前後左右に回したり、頭の後ろに手を回して反対側の肘を押さえながら伸ばしたり、両手を頭の後ろで組んで屈伸運動をしたり、膝を左右に伸ばしたり、両手を壁などについてふくらはぎの筋やアキレス腱を伸ばすなどして下さい。

こうしたウォーミングアップをした後、打球場でボールを打つのですが、その前に素振りをして10スイングくらいしてから実際にボールを打つようにして下さいとのこと。

ゴルフは他のスポーツに比べて瞬発力や過激な負荷がかかるスポーツではありませんが、ミスショットした際に、ボールを捜しに急な法面を駆け上がったたり、下りたりすることがあります。こうした時にアキレス腱やじん帯、肉離れなどを起こすことがありますし、また心臓に負荷がかかり心筋梗塞などを発症させることがありますので、十分注意して下さいとのことでした。

メンバーライフをもっと楽しんでください

7月最後の日曜日。今月は日曜日が5回あるため、最終日曜日はクラブ競技がありません。しかしながらメンバーの皆様に多数ご来場いただきました。クラブ競技がなくともメンバーひとりで気軽に来場し、メンバー同士の組で楽しくプレーされている。これこそが会員制ゴルフクラブの良いところだと思います。

クラブ競技だとある程度スコアを意識してスコアメイクに専念してしまい、同伴者と共にプレーや会話などを楽しむ余裕がなかなか生まれにくいものです。しかしながら競技でなくメンバー枠で初めてご一緒するメンバーとプレーして気心が通じ「今日はいい人とプレーできて実に楽しかった。天気も良くて最高にハッピーな一日でした」という声を聞くと、こちらまでハッピーになります。

一方、スコアに執着される方もおられます。なんといっても自分の目標スコアを目指してスタートするわけですから、自分の目標スコアをクリアしたときの達成感はゴルフの醍醐味でもあります。そのせいかラウンド中は自分のプレーに集中するあまり、周り（同伴者）が見えない協調性に欠ける方もたまにおられます。

ゴルフはスコアを競うゲームでもありますが、四季折々の花鳥風月を愛でながら人と人の交流を図ってくれる神が与えた本当に素晴らしいスポーツです。ゴルフ仲間が揃わなくともメンバー枠を利用してゴルフを楽しむことができるのが会員制ゴルフクラブの良いところ。メンバー枠がどんどん増えていけばいいなと思う、今日この頃です。

ゴルフの前日は深酒せず十分な睡眠をとるように

何度かこのブログでも書いてますが、夏場のゴルフで熱中症には気をつけてください。猛暑の日とはとくに十分な注意が必要です。気温が30度を超す場合は、体調や水分補給に気をつけてください。

ゴルフの日は、スタート時間の1時間前くらいにゴルフ場に着くくらいの余裕をもって自宅を出発してください。ゴルフ場に到着して着替えば軽くストレッチなど準備運動をして体を動かすように。スタート前にコップ1杯分の水分を補給してスターティングホールへ行くようにしましょう。

ラウンド中はのどが渴けば水分を補給してください。幸いゴルフは他のスポーツと違ってショット、パット以外移動中にペットボトルを持ちながら水分補給ができますから、頻りに水分補給してください。

ゴルフはまた他のスポーツのように激しく体を使うスポーツではありませんが、唯一ミスショットなどでボールを捜しに行く際、急激な法面を駆け上がったり、駆け下りたりして心臓や脚などに負担をかける時があります。こういった時に心筋梗塞や脳溢血、アキレス腱を切ったり、肉離れなどを起こしがちですから気をつけてください。

何よりも注意しなければならないのがゴルフの前日です。深酒したり夜更かしせず十分な睡眠をとること。体調が悪い状態でゴルフをすると、熱中症になりやすいので、くれぐれもご注意ください。

捻挫、肉離れなどのときは冷やすべきか温めるべきか？

ゴルフをプレーしていて急な斜面を駆け登ったり、駆け降りたりするときに肉離れや転んで捻挫したりすることがよくあります。こうしたとき、プレーを中止してクラブハウスに戻られ救急室（休息室）でお休みいただくのですが、人によっては「風呂に入って患部を温めてゆっくり同伴者が上がってくるまで待ってます」といわれる方がおられます。

肉離れや捻挫などの場合、救急処置として患部を冷やすのが良いのか、温めるのが良いのか迷いますが、整形外科の先生の話では温めるよりは冷やす方が賢明だとのこと。

筋肉が傷つき炎症を起こしているので、温めてしまうと血液の循環が良くなりすぎ細胞の損傷をよりひどくしてしまうそうです。こうした場合は、温めるより冷でやすことだそうです。患部を冷やすことで血管を収縮させ血液の流れを鈍らせ組織の代謝を減らして炎症を抑えるとのこと。

日本経済新聞の土曜日発行の日経プラス1でも、運動中に捻挫をしたりしたときは、「冷やすべきか、それとも温めた方がいいか」と迷った場合は「温めて傷めた部分が悪化することがあるが、冷やしてひどくなることはない。迷ったら冷やしてほしい」と書いていましたので、こうしたアクシデントが起きた場合はエアサロンパスなど冷却消炎スプレーで患部を冷やすようにしてください。

盛り上がりに欠ける「関西オープン」

オープントーナメントで日本最古の歴史を誇る「関西オープン」、といえども石川遼、藤田寛之、金庚泰などのトッププロが欠場し、いささか華やかさに欠けゴルフファンの注目度も低いようです。

皮肉なことに今週は「関西オープン」以外に女子ゴルフツアーの「CATレディース」(大箱根カントリークラブ)とシニアツアーの「ファンケル・クラシック」(裾野カントリー倶楽部)が開催されています。この3ツアーを比較してみると、「関西オープン」が今ひとつ盛り上がらない理由がほのかに感じ取れます。

<関西オープン>

賞金総額5000万円 優勝賞金1000万円 19日の観衆1530人 テレビ放映はサンテレビのみ

<CATレディース>

賞金総額6000万円 優勝賞金1080万円 19日の観衆3493人 ABC系列でテレビ放映

<ファンケル・クラシック>

賞金総額6000万円 優勝賞金1500万円 19日の観衆7720人 テレビ大阪系列で放映

男子ツアーでしかもゴルフ人口の多い近畿圏の兵庫県という至便の地で開催されながら観衆は1530人、女子ツアーの半分、シニアツアーに至っては静岡県裾野市という立地ながら男子ツアーに比べて5倍も多い観衆を集めています。

ギャラリー数だけでなく、賞金総額においても、テレビ放映に関しても女子ツアー、シニアツアーに後塵を拝す「関西オープン」。ゴルフファンやテレビ局など残酷なほどトーナメントの魅力、価値を見抜いているようです。いつまでも日本最古の歴史をもつ「関西オープン」というような矜持は捨て去りトーナメントの根本的な部分から改革して行く必要があると思います。

ゴルフ規則の本質と精神

ゴルフ仲間20数人に「ルールブックを持っていますか？」と問うとほぼ全員が「ノー」の答え。「ルールブックを見た（読む）ことがあるか？」に対して、「むかしに一度買って読んだことがあるが」という者が数人。「ルールブックなど買ったこともないし、見たことがないという輩が20人近くいたことはショックでした。

ではゴルフルールはどうして理解しているのかと問うと「原則、ボールには触らず、トラブったら同伴者やキャディにルール上の処置を教えてもらう」という“ノー天気ゴルファー”がほとんど。同伴者やキャディからペナルティや救済措置などその都度、教えてもらいそれを修得して行くというパターンが最も多いようです。

先輩ゴルファーや上級者ゴルファーにルールも指導してもらおう、これはこれで良いのですが、ゴルファーたる者、ルールブックを購入し一度はゴルフ規則に目を通しプレーの際は、キャディバックに入れておくくらいの常識は持ち合わせて欲しいと思います。

ジュニア競技や学生の競技ではルールブック携行が必須で、スタート前に必ず携行しているかどうか競技委員が確認しています。携行していなければ失格という厳罰を処されます。仲間同士の遊びのゴルフいえどもルールを弁（わきま）えてこそ真のゴルファーといえるのです。

関西ゴルフ連盟から昨日、送付されてきたポスターをご覧いただきたい。

《ゴルフ規則の本質と精神》

ゴルフ競技では、通常、審判員が立ち会わない。それは、「ゴルファーはみな誠実であり、故意に不正をおかす者はいない」ということが基本的考え方になっているからである。従って、ゴルファー一人ひとりがゴルフ規則をよく知って、自主的に規則を守るようにすることが大切なのである。

ソケット、シャンクの打球事故に注意してください

最近、キャディの労災事故で意外とお客様が打ったボールが当たる打球事故が多いようです。打球事故といえば後続組からの打ち込み事故を想像しますが、シャンクやソケットしたボールが数メートル右横にいるキャディの顔面を直撃し怪我するケースが圧倒的です。

キャディの労災事故の調査でこうした打球事故は把握できますが、キャディ以外に同伴プレーヤー同士のこうした打球事故はもっと多いと思います。打ち込みでないソケットやシャンクによる偶発事故に関してはプレーヤー間で原則、解決するケースが多いので事故の実態が支配人会でも把握できていません。

石のようなボールがすごい勢いで飛んでくるのですから顔面に当たれば顔面骨折や運悪く目に当たれば失明という不幸なことにもなります。ショットしようとするプレーヤーの前方には絶対に出ない、また打者がショットし終えるまで見届けるようにしてください。

打者から目を離さなければ万一ボールが飛んできて瞬間的に避けることができると思います。人間の防御本能から手で目や顔を防御し手の打撲程度で済むこともあるのですから、同伴者のプレーから目を離さないようにしてください。

もうひとつ打球事故でよく耳にするのが、ボールを曲げて林の中に打ち込み、木と木との間を狙って脱出するトラブルショットが木に跳ね返って自分に当たるケース。プロならば10センチの間があればそこから脱出するテクニックをもっていますが、プロやシングルでないアマチュアゴルファーなら横なり後ろなり1打謝って安全にトラブル脱出を計られる方がスコア的にも安全面でも最良だと思います。いずれにしても打球事故を起こさないよう細心の注意を払ってください。

バカの棒振りと賢者の散策、あなたはどっち？

作家・夏坂 健氏といえば、洒脱なゴルフエッセイストとして知られています。氏の著書「ゴルフの処方箋」を読んでいると、なるほど言いえて妙という文に目がとまりました。今日は、手抜きして氏の文を抜粋掲載します。

？

「ゴルファーは2種類に分けられます。スコアだけが大事な人と、スコア以外にも何かを求めようとする人です。私は直截（ちよくさい）的に知性派と非知性派、上品と下品、ゴルフが似合う人と似合わない人、一緒にプレーしたい人と絶対にゴメンという人、バカの棒振りと賢者の散策、成り金の悪趣味と精神貴族、さまざまな言い方で両者にぴしゃりと線引きしています。

いかに非難されようとも、事実から目をそむけるわけにはいきません。下劣な人間はゴルフでも下劣です。車から空きカンや吸い殻を投げ、道にツバを吐き、車内でも足を組む非常識な人間が、ゴルフ場に限って常識的にふる舞うとは考えにくい話です。ゴルファーは2種類、この事実を頭に叩き込んでください。

いかがでしょう。皆さんの周りにはいるゴルフ仲間、この2種類のどちらかに分類できるのではないのでしょうか？

ゴルフルールについて

今日はマンスリー競技A・Bクラス開催につき、7時前からスタート室でメンバーの皆さんと顔を合わせ挨拶。「いつも総支配人のブログ読ませてもらっています」とお声をかけてくれる方も。熱心なブログ読者という方からブログネタにどうですかと読売新聞の10月30日の編集手帳の切抜きを渡されました。

切抜きには、ゴルフでパットしようとして構えに入ったら、急に風が吹いてきて球が動いたら「風だから仕方ない」とやり過ぎるのは誤り。規則上はプレーヤーが動かしたと見なされ1打罰が科せられる。プロの選手の間では「ゴルフで最も理不尽な規則」と言われてきた。と続き、さらに具体例として今年5月の米国男子ツアーで優勝目前の選手がこの1打で2位選手に並ばれ、プレーオフの末破れ「バッド・ルール!」とコメントしたそうだと紹介しています。

最近のトーナメントコースは超低刈りの高速グリーン、いわゆるグリーンスピードが13フィートという超高速グリーンでは、傾斜のきついグリーン上に辛うじて止まったボールが風に吹かれて動き出すことが現実として起っています。熾烈な優勝争いが風の悪戯で順位が入れ替わるなど球趣をそぎます。

こうしたことから英国R&Aと米国ゴルフ協会がこのペナルティを来年から撤廃すると公式発表しました。ゴルフというゲームは自然が相手のスポーツだけに信じられないようなハプニングが起ります。ティーショットした球をカラスが啜って持ち去ったり、打った球がハチの巣の近くで危なくて打てないとか信じられないようなハプニングが起るのがゴルフです。

前例のないようなトラブルが発生した場合はいかに対処するのか。ゴルフゲームは唯一、審判が立ち会わないスポーツだけに、プレーヤー自身がフェアプレーに徹しルールでいう「ゴルファーはみな誠実であり、故意に不正を犯す者はいない」という理念の下、ルールに則り処置するのがゴルファーの務めであると明記されているわけですから努めて自分に有利な解釈だけはは避けてほしいものです。

貴重品ロッカー荒らしの手口

1月3日のブログで貴重品ロッカー荒らしのことを書きましたが、被害ゴルフ場の支配人とゆっくり話をすることがあったので、状況を詳しく聞きました。

手口は前に書いた通り貴重品ロッカーの暗証番号が盗み見れる上部に小型のカメラを貼り付け、離れた場所でその映像を受信するという従来の手口です。隠しカメラで暗証番号を盗み見、その番号で貴重品ロッカーを開けて財布を盗み出し、そのままコンビニのATMなどでキャッシュカード、クレジットカードを利用して現金を引き出す古典的ロッカー荒らしだったそうです。

貴重品ロッカーを利用する人のほとんどがキャッシュカードやクレジットカードの暗証番号が貴重品ロッカーの暗証番号と同じであることが問題です。せめてカードと貴重品ロッカーの暗証番号を変えておれば被害は少なかったかもしれません。

今回の貴重品ロッカー荒らしはカードをスキミングしてカードを複製、偽カードを使いあちこちで使いまくるといった被害の拡大はなかったようです。巧みな窃盗団ではサイフからカードを取り出しスキミングして財布は元のまま貴重品ロッカーに戻し、犯行がばれないようにする手口もありますから気をつけてください。

今回、被害を受けたゴルフ場支配人によると、犯行のあった日に外国人（あえて国名は伏せます）のコンペがあり、その前日に数人の外国人がプレーせずにクラブハウスやスタート室周辺をうろついていたとのこと。コンペの下見かなと気にもとめなかったとのこと。「軽々に外国人の仕業とは決めつけられませんが、今から思えば限りなくクロに近かった」とは当該ゴルフ場支配人の弁でした。

昔のゴルフ場での財布など貴重品の盗難といえば、風呂の脱衣籠からロッカーの鍵を抜き取り更衣室のロッカーの上着に入れていた財布や貴重品を盗み取るという犯罪が横行していました。こうした盗難事故を防ぐために貴重品ロッカーをどこのゴルフ場でも設置するようになったのですが、逆に財布や高級時計など間違いなく貴重品ロッカーに納めていることが分かっているだけに、窃盗犯にとっては貴重品ロッカーはある意味宝の山なので、いろいろと悪智恵を働かせて貴重品ロッカーを開ける手立てを考えるのは当然です。気をつけましょう。

支配人仲間と冗談で話していますが、逆に更衣室のロッカーが今は一番安全かもしれません。更衣室のロッカーのシューズケースに財布や貴重品を入れておけば意外に安全かもしれません。といっても責任はもてませんが・・・・・・・・。

ルールの基本は「ボールはあるがままにてプレーせよ」

来年1月から新しく改正されたルールが施行されます。もともとゴルフのルールはわずか13条で成文化されたと物の本に書いています。ゴルフゲームの基本は「ボールはあるがままにプレーせよ」です。ショットしたボールがいかなる箇所に行ってもそのままプレーすればルールを発動させる必要はありません。そこに打った自分が悪いのだから自己責任において、いかなる状況下であってもプレーしさえすれば何の問題も発生しないはず。

ところが公正公平の理念とやらでプレーヤーの責任でない過酷な条件下、即ち境界を示す杭、ネットなどコース側が設置した、いわゆる人工構築物などに接する所に転がり込んだボールや、池や川にボールを入れプレーが進行できないなどについて、救済を求めることは正当な権利としてルールで救済処置が加えられてきました。こうしたルールの改正に次ぐ改正で、本則だけで34条100を超える項目が積み重ねられ、さらに付属規則まで追記されてきました。

ゴルフゲームを公正に行うためには今後も想像できないようなトラブルが発生し、その問題解決のためにルール裁定が行われ、改正されて行くだろうと思います。あるゴルフ書物に「ルールが詳細になればなるほど、ルールの欠陥についてインチキを行う悪しき族（やから）がいるから、ルールはさらに微細にわたって遺漏なきを期すことになる。こんなイタチごっこの結果が、現今のルールだと思って間違いない」と断じています。

ティーショットすればグリーンに上がるまではノータッチ、あるがままの状態プレーする。OBや池に入れたりプレー進行不可能な場合を除いて、過酷な条件下に行ったボールでも打った自分が悪いのだと救済に頼らずプレーを進行する。これを肝に銘じてプレーしていただければルールにまつわるトラブルは減少すると思うのですが・・・・。

ゴルフ振興、まずはゴルフ利用税の撤廃から

新年早々、わが国の「人口動態統計の年間推計」が厚生労働省から発表されました。出生数は戦後に統計を取り始めた1947年以降で最小の105万7千人（前年比マイナス1万4千人）、死亡数は126万1千人（前年比プラス6万4千人）と逆に最多になったそうです。

国内で生まれた日本人の赤ちゃんより死亡数の方が多く、マイナス20万4千人の人口減になりました。高齢者が多く若年層が少ない逆ピラミッドは深刻な問題です。

ゴルフ界も同様でゴルファーの高齢化やゴルフ人口の減少により深刻な状況にあることは自明の理です。しかしながら手をこまねいているわけにはいきません。ゴルフ業界全体で真剣に取組んでいかなければなりません。だからといって関西ゴルフ連盟が推し進めようとしているユーザーであるゴルファーから来場のたびに30円の振興基金を徴収するのはいささか疑問に思いますし賛成できません。

ゴルフの振興策というものは、すでに大手のゴルフ場チェーンや多くのゴルフ場が実施しています。経費を切り詰めてギリギリの低額料金を設定し2回のところを3回来てもらえるような料金設定やポイントカード、料金の安いセルフ化、カートのフェアウェー乗り入れ、割安料金の早朝ゴルフなど各クラブ（各法人）が知恵を絞ってすでに実施しているのが振興策です。ゴルフの振興策でいえば名門ゴルフクラブといわれているゴルフ場が一般ゴルファーに月に1回でも2回でも低料金で門戸を開放すればもっと活性化するはず。

日本ゴルフ協会や関西ゴルフ連盟などの競技団体がゴルフ振興の旗を振るなら、まず第一に取り組むべきことは「ゴルフ利用税」の撤廃のための行動を先頭に立ってやるべきだと思います。さらにいえばオリンピックの正式種目に採用されるゴルフがスポーツとして認知されたわけですから、裾野（ジュニア）開発の一環としてジュニアへの指導教育として小中学生の体育教科に取り入れるように文部科学省に積極的に働きかけるなど具体的な振興のための施策はいくつもあるはず。

地元で開催する奈良県オープン、もう少し注目を集める工夫を。

PGA奈良県プロゴルフ会（前田新作会長）が主催する「奈良県オープンゴルフ選手権」が昨日、今日の2日間、花吉野カンツリー倶楽部で行われています。この「奈良県オープン」は2000年にプロゴルファーの育成やチャリティ事業の推進、ゴルフを通じて地域の活性化などを目的に第1回大会が行われ、今年で13回目を迎えたそうです。

PGAの奈良県プロゴルフ会に所属するプロが自らスポンサーを探し、会場の手配からトーナメントの開催準備まで手弁当で慣れない仕事に汗を流しながら仕上げた手作りのトーナメントです。それだけにもう少しPRに工夫すればもっと注目されるトーナメントになるのになあと残念に思います。

昨日行われた初日の成績を見ようと新聞を広げても一般紙は言うに及ばずスポーツ新聞のゴルフ面を捜しても記事掲載は無論、成績すら掲載されていません。今回の大会には、昨年優勝した宮本勝昌をはじめ若手実力者の池田勇太、白佳和、上井邦浩、山下和宏などトーナメント中継でもお馴染みのシード選手が出場しているにも関わらず注目度が低くメディアの関心はゼロ、残念です。

男子ツアーが開催されない週に開催しているにも関わらず、女子ツアーと全米オープンの記事だけ。賞金総額1200万円、ツアープロも数多く出場しているだけにもう少しメディアに取り上げられる工夫をすれば知名度も上がり盛り上がるはずなんですけど……。

当クラブの村岸プロもPGA奈良県プロゴルフ会の副会長としてこの大会の準備に尽力していただけない、もう少しメディアに取り上げられ注目が集まるトーナメントに発展して行けばと願わずにおれません。

ちなみに今朝、村岸プロから聞いた初日の成績は地元KOMAカントリークラブの堀之内豊が33、32の65でトップ、1打差でこちらもKOMAカントリーの白倉渉平が66で続き、注目の池田勇太は34、33の67で4位タイとのこと。今日の悪天候で上位はさらに混戦しているだろうと思いますが、情報はまだ入ってきていません。成績結果は、夜に奈良県オープンのホームページを開けば判るはずです。

酷暑期間の来場時はノージャケットでも結構です

関西電力管内で7月2日から節電要請期間がいよいよ始まります。近畿の自治体や企業の省エネ、節電10%～15%目標が本格化します。

昨日、ゴルフクラブナバラで奈良県ゴルフ連盟（萩巢史恭会長）と奈良県ゴルフ協会（前田正一郎会長）の定例会がありました。奈良県ゴルフ連盟は奈良県下30クラブで組織されており、ゴルフ場で起る諸問題を協議したり各ゴルフ場の発展を図ることを目的としています。

会議では、通常の議題以外に関西電力の計画停電をも想定した電力需給の逼迫状況が話題となりました。自治体や企業が節電努力している状況にあってゴルフ業界も7・8・9月の酷暑期の上着着用は除外することを確認しました。

とくに8月23日に行われる関西ゴルフ連盟主催のクラブ対抗ともいえる「インタークラブ競技予選」については、表彰パーティもノーネクタイ、ノージャケットとすることを奈良県ゴルフ協会・前田会長（奈良国際GCキャプテン）が提起され賛意が得られました。

ゴルフ場はスポーツ施設であると同時にゴルフを愛好する同士のコミュニティーでもあります。そのためマナー・エチケットといった礼儀を重んじるゴルフクラブは、その基本として来場時の上着着用を義務付けていますが、クラブによっては6・7・8・9月の酷暑期間は除外しています。

関西では8月23日にKGUの「インタークラブ地区予選」が各府県の地区ごとに分かれて行われます。クラブを代表する選手6人によってクラブの名誉を賭けて争われますが、単に勝てば良いだけでなく、選手の一挙手一投足、マナー・エチケットといった選手の品性も問われるだけに代表選手のプレッシャーも並大抵ではありません。

プレー後に行われる表彰パーティでもジャケットを着用し出席するのが通例ですが、今回の前田会長の「奈良県で行われる7・8・9月の酷暑に行われる競技等については、電力不足による節電、省エネが求められている時にジャケット着用は時代に逆行している。奈良県下ゴルフ場で行われる競技はKGUの競技を含めてノーネクタイ、ノージャケットとしましょう」というのは誠に時宜を得た措置だと思います。

来場時の服装がノーネクタイ、ノージャケットの省エネスタイルになったからといって、Tシャツ、ジーンズ、サンダルや草履履きでの来場は県下30クラブは絶対お断わりですから誤解のないようにお願いします。

スコアメイクの鍵はパットです

プロトーナメントでは「パットイズマネー」といわれるように、30センチのパットを外して優勝を逃したり、1打差で賞金が数百万円も違うだけに、たかが30センチのパットだからと努々（ゆめゆめ）疎かにしてはいけません。300ヤードのナイスショットも1ストロークなら30センチのパットも1ストロークですからスコアアップを目指すならまずパターの練習を徹底するように。

パー72のコースならば半分の36パットがコースレーティングの基準になっています。パープレーしようと思えばまずは18ホールを絶対に36パット以内に収めることです。

ダイナースクラブ発行の月刊誌「SIGNATURE」を読んでいたところ、「スコアメイクの秘訣」というコラムでなかなか面白い分析をしていたのを見つけました。

これによると「ゴルフのスコアの40%はパッティングが占めている」そうです。スコアが100のときのパット数は約40回、90で36回、80で32回と一般プレーヤーの平均値を出しています。プロの場合でもパープレーの72のときで30～31回、70のときで28回くらいだそうです。

わが国の超せっかち元宰相のようにグリーンにオンすれば2パットとして勘定して次のホールへ向うとなれば誰もがスコアはぐ～んと良くなります。パターほど簡単なショットはありません。どんな初心者でもウッドやアイアンクラブで打つより簡単です。強弱による距離感さえ体得すればカップインは別としてそれなりにパッティングはできます。

しかしながら簡単であるが故に難しい。単に打ち方、技術的問題だけでなく集中力、精神力といった見えない力に大きく影響されるからです。なんでもない30センチのパットが、絶対入れなければというプレッシャーで体が固まってスムーズなストロークができずカップを外してしまうことは、誰でも経験されていると思います。

かのジャンボ尾崎も初めてのビッグタイトル・日本オープンでしたか、30センチのパットをきめれば優勝というときに、プレッシャーで何度もアドレスの仕切り直しをしてカップインをしたことがありました。ギャラリーやテレビ観戦していた人も目をつむって打っても入る30センチを、いざ勝ちを決めるとなると、並大抵のプレッシャーではない凄さをまざまざと見せ付けられました。

スコアメイクの鍵はパットにあります。グリーン外から1～2メートルに寄せて1パットで沈めると気分は高揚し精神的にも余裕が生まれショットまで良くなります。反面、30センチのなんでもないパットを外して3パットにしてしまうと精神的にも弱気になり、また外してしまうのではないかと負の連鎖に陥ってしまいます。

プロでもアマチュアでもショットよりもパットの精度を上げることこそが好スコアを出す近道のようなのです。いよいよ来週の水曜日からJGTOのクオリファイングトーナメント1stステージが始まります。グリーンのコリティをあげるべくコーススタッフは頑張っています。

ゴルフのハンディキャップについて

ゴルフそのものをレジャーすなわち遊びとして捉えるのか、スポーツとしての側面を重視するかは議論の分かれるところであり、随分前から今日まで議論されてきました。ゴルフはその成り立ちから老いも若きも男も女も同一ステージで楽しめることが今日のゴルフの隆盛につながってきています。

老若男女が一堂に会して楽しむために、ハンディキャップが生まれました。しかしながらこのハンディキャップがなかなか曲者で、ゴルファーの技量に応じたハンディキャップが査定されているかといえばノーといわざるをえません。日本ゴルフ協会のハンディキャップ査定システム（JGAのホームページのハンディキャップ欄をご覧ください）も、より本人の技量に応じたハンディキャップを査定するかに腐心されていますが、はっきりいって正当かつ正確公正なハンディキャップなんて査定できると思いません。

プロゴルファーですら5アンダーパーをマークすることもあれば10オーバーも叩くこともあるのですから、アベレージゴルファーなら上下20くらいのストローク差が出て当たり前。ハンディキャップ競技でネット65とか60とかが出ると必ず出てくる声が「ハンディキャップ甘いのと違う？こんなスコアが出たら私ら優勝できるわけないわ。」

ならば、参加者全員プライベートコンペでよくやるようなダブルペリア方式にするかですが、こちらも隠しホールにはまるかはまらないかで出るハンディキャップは大きく変わります。

ハンディキャップ委員会でもよく話題になるのが、自分のハンディキャップを上げたい（維持したい）人もいれば、下げたい人もいるということ。前者はAクラス、とくにシングルゴルファーに多く、いわば見栄っ張りに多いと思います。一方、自分のハンディキャップは少しきついで下げて欲しいという方は、シニアゴルファーに多く齢とともに実力がおちてきて競技でも上位に入賞すらできなくなったので、自分の実力を過大評価せず実力通りの査定をしてもらい競技での優勝争いのひとつもしてみたいと本音を漏らす人も。

数多くあるスポーツの中で老若男女が同一のステージでハンディキャップにより一緒にプレーして争える競技はゴルフだけです。それだけに自分の技量・実力が正当に評価査定されるハンディキャップシステムがあればと思うのですが・・・・・・。

今日は9月のマンスリー競技です。Aクラス75名、Bクラス88名が参加。カンカン照りの天気ではなく時おり爽やかな風が吹き抜ける絶好のコンディションの中で熱戦が繰り広げられています。さて、本日の優勝スコアはどれくらいのアンダーが出るのでしょうか。

非公認球、高反発ドライバーは遊びといえども使用すべきでない

三重県の某ゴルフクラブのシニア選手権に出場したゴルフ仲間の元支配人が決勝で惜しくも敗れ準優勝だったとのこと。シニア選手権が終わった後、何日かしてからゴルフショップの「GOLF 5」に買い物に出かけたとき「非公認球」が売られていて、「シニア選手権の決勝戦の相手とボール確認した際のボールは、たしかFit Wayだった。なんと非公認球ではないか」と気がついたような。しかし時はすでに遅しで勝敗は覆がえず無念の涙。

相手のゴルファーが非公認球を承知で競技に出たのか、それとも知らずに出場したのか判りませんが、ボール確認の際、それを「非公認球」と指摘できなかった競技者や関係者も落ち度といえば落ち度です。しかしながらゴルフというスポーツはゴルフ規則に明記されているようにプレーヤーは規則を守ってプレーする誠実さに頼っているわけですから、まさか非公認球を使っているとは思わなかったことでしょう。

問題は当の当事者が非公認球であることを知って出場したのか、その球が非公認球であることを知らずに出場したかが大きな問題であると思います。

驚いたことにこうした非公認球が堂々と作られており、売られていることです。ネットで調べてみますと、「世界で一番飛ぶボール」を求めて開発された、究極のゴルフボール「バンディット」！とか、驚異的な飛距離を実現する、高反発ツーピースボール、【ミサイルボンバー】など多種多様な非公認球が販売されています。

ちなみに列挙してみますと「BREAK THRU」2ダース6, 300円、「バンデッド」1ダース6, 980円、「ミサイルボンバー」1ダース3, 300円、「ブレイクスルー」4ダース12, 600円、「Fit Way」1ダース798円、「TOBUNDA ダイナプラス」3球499円などなど。

「あなたにもプロのような300ヤードのドライバーショットを可能にします。」「ライバルを悔しがらせるボール」など魅力的なキャッチコピーでPRしています。確かにより遠くに飛ばしたいというのはゴルファーの永遠の夢かもしれませんが、規則に違反する非公認球でライバルに勝っても虚しさが残るだけです。

この種の球を購入される方はたぶん「自分は競技などに出ない、遊びのゴルフだから」という人が多い。たとえ遊びといってもゴルフのプレーは同伴者とラウンドするわけで、

スコアを単に競い合うだけでなく飛距離や技量を暗黙の内に競い合っているのですから、同伴者に対して許されない行為をしているという認識をもって欲しいものです。

非公認球だけでなく、今週の「週刊ゴルフダイジェスト」（11月27日号）に「ルールぎりぎり&高反発ドライバー」の特集記事があり、いわく「高反発のクラブが規制されて4年になるが、アマチュアのあいだではジワジワと復活の兆しを見せ、高反発コーナー」を特設するショップも見られるほど。」として特集記事と話題のドライバーの一覧表が掲載されています。

記事の結びに「競技とは無縁で、とにかく一発の飛びでもいいから飛ばしたいというあなた。ぜひ次ページのルールぎりぎり&高反発ドライバー試打結果を参考にしてみてください」と11本のドライバーを紹介しています。ぎりぎりは許されるが、規則違反の高反発ドライバー6本を紹介、推奨するのはいかがなものかと首を傾げてしまいます。

非公認球といい、規則違反の高反発ドライバーを使用して自分ひとりでプレーするならいいですが、ゴルフは同伴者とラウンドするゲームですから遊びでは済まされないということ肝に銘じていただきたいと思います。

ゴルフ場利用税廃止は先送り

ゴルフ業界を挙げてゴルフ場利用税の撤廃を要望していましたが、実現できず存続が決まりました。日本ゴルフ協会、日本ゴルフ場事業協会などゴルフ業界諸団体で設置した「ゴルフ場利用税廃止運動推進本部」（小宮山義孝本部長）より経緯の詳細報告が送付されてきました。

平成25年度の税制改正について、文部科学部会の税制改正要望項目として自民党税制調査会で取り上げられ「ゴルフ場利用税の廃止」を支援する議員と「ゴルフ場利用税の存続」を求める全国知事会・市町村長会の支援を受ける議員との間で激論が交わされたとのこと。

結果、平成25年度税制改正において、ゴルフ場利用税の廃止は実現できなかったとのこと。ゴルフ場利用税の代替財源がなく国や自治体の厳しい財政事情により、地方に配慮する形で結論が先送りになったそうです。2016年のオリンピックにゴルフ競技が復帰、東京オリンピック開催候補などの追い風があったものの、撤廃実現に至らなかったようです。

自民党税制調査会の額賀福志郎座長は「オリンピックの競技種目にも復活しておりゴルフ場利用税廃止については理解できるし、存続の理由もない。ただこれに代わる代替財源がないのが現状」として継続案件として先送りされたとあります。

消費税見直しのこの時期がゴルフ場利用税廃止を実現する最大の機会であると考え、次の26年度税制改正での廃止実現に向け、ゴルフ振興議員連盟、スポーツ立国調査会等の先生方や文部科学省とともに、より強力な活動を継続して行くと小宮山本部長は決意を新たにしています。

プレー料金が年々低価格化しており、料金に占めるゴルフ場利用税は大きく、ゴルフ業界そしてゴルファーにとっても廃止はメリットが大きいだけに今後とも利用税廃止に向けた運動は強力に進めて行かなければなりません。ゴルファーの皆さんのご協力も不可欠です。宜しく願いいたします。

月刊ゴルフマネジメント3月号に紹介されました

ゴルフ場経営専門誌「月刊ゴルフマネジメント3月号」（一季出版発行）の「クローズアップ21」というシリーズで奈良柳生カントリークラブのメンバーを中心としたクラブ運営が評価され、「メンバーの要望に応える倶楽部を目指す」との表題で、4ページにわたって詳しくクラブの運営スタイルなどが紹介されています。

一部抜粋しますと、「日本のゴルフ場の9割がメンバーシップのゴルフ場である。ただ、その中にはメンバーシップとは名ばかりで、パブリックと変わらないゴルフ場も少なくない。……中略……そんな価格競争に参加せず、差別化を図るために今こそ会員制ゴルフ場本来の姿に戻り、メンバー重視の運営をすべきだとするゴルフ場もある。奈良柳生カントリークラブはメンバー重視の運営スタイルを固持し、メンバーを介してしかエントリーを受付けないなどメンバー優先のスタイルを貫いている。そこで現在のメンバー重視の運営スタイル、同クラブが行っている取り組みやコース整備などについて、紹介することにした。」とあり、以下4ページにわたって詳細に説明しています。

紹介記事に関心のある方は「月刊ゴルフマネジメント3月号」を大手書店かアマゾンのネットでご購入ください。

注目を集める削り出しの山田パター

安倍首相とオバマ大統領の日米首脳会談が先月行われましたが、安倍首相がオバマ大統領への土産として持参したパターがゴルファーの注目を集め今、注文が殺到して製造が追いつかないそうです。

このパター、知る人ぞ知る日本の職人が作り上げた削り出しパターで、山形県にある山田パター工房のパターだそうです。ここのパター「エンペラー」を使ったライン・ギブソン選手が昨シーズンの5月にPGAの下部ツアーで55のスコアを叩き出したことから話題を呼び、それを知るゴルフ好きのオバマ大統領からそのパターのリクエストが内々あったそうなの。

その情報をキャッチした外務省が山田パター工房に安倍首相の土産としてオバマ大統領に贈りたいと社に注文があったそうです。しかしオバマ大統領はサウスポーであるため、在庫がなくやむなく左利き用の在庫が1本あった「スティック・オブ・ライフ」を間に合わせで対応したというエピソードが週刊誌に取り上げられています。高い精度が求められる削り出しパターが売りにだけに、大統領の所望する左利きの「エンペラー」を時間をかけて山田パターでは現在、製作しているそうです。出来上がり次第ホワイトハウスに送られます。

今回の日米首脳会談の報道の中で映し出された山田パターの贈呈シーン、目ざといゴルファーから同社へ世界中のゴルファーから注文が殺到しているそうです。美しいデザインもさることながら金型製造、手削り、精密機械削りのプログラミングまで一人で仕上げる山田パター、さぞかし値段は高いのだろうと想像しましたが、どのモデルのパターも2万3100円（少し前まで1万9800円でしたが）と意外に安い？。注文殺到で手元に届くまでかなりの日数がかかるようです。オバマ大統領御用達の山田パターとなれば2万、3万のプレミアがつきネットオークションに出てくるのではないかと思います。

筒井寛昭 221世東大寺別当、晋山式

当クラブの筒井寛昭理事長が5月1日付けで東大寺の第221世別当・華嚴宗管長に就任された晋山式と披露宴にお招きいただき、代表取締役の遠山隆重・彩子夫妻と共に参列させていただきました。式場には県内諸寺の僧侶や荒井正吾知事ら政財界の関係者も多数出席、当クラブの理事、運営委員、会員の方々も多数お見うけしました。

晋山式は大仏殿の本尊・盧舎那仏の前で厳かに営まれた「伝燈奉告法要」で筒井寛昭師は「不自惜身命をもって東大寺の法灯を継承する」と誓われました。就任を報告する伝燈奉告文で「人の心は迷いのために救われ難いことも多く世間の様子は不安に覆われている」と憂い、「人心の和合が進まんことを、万世に掲げんと欲す」と述べられました。

晋山式後に大仏殿東庭の仮設会場で行われた披露宴では、筒井別当は「初代良弁別当から220人の別当が東大寺を守ってきて下さった。221世として身の震えるような思い」と挨拶。さらに「2度の被災で東大寺は燃えてしまったが、人々の力で復興されてきた。東日本大震災の復興も人のつながりを実現することにより進んでいく」と語られました。

祝辞では寺院関係者を代表して唐招提寺の石田智圓長老が「守るべき伝統を踏まえつつも、この混乱した現代社会の先導役になられることを祈念する」と祝辞を述べられた。

全米プロシニア制覇した井戸木鴻樹プロ

今日4日、会議で箕面ゴルフ倶楽部へ行ったところ、顔見知りのメンバー数人に挨拶をすると「井戸木鴻樹プロ、凄いことをやりましたね。」とか「井戸木プロは前田プロの門下生で、箕面GCで研修生してプロ合格したんですよね。たいしたもんですね。」と箕面GCのメンバーさんは自分のことのように自慢げにお喜びになっていました。

米国ミズーリ州セントルイス・ベルリーブCCで行われた全米プロシニアゴルフ選手権で井戸木鴻樹プロが見事、優勝というニュースが飛び込んできたときは、私だけでなく箕面GCのメンバーや従業員など多くの人が快哉を叫びました。

思えば井戸木プロは茨木市の豊川中学を卒業後、箕面GCの前田利光プロを頼って研修生として入社。ジュニアゴルファーとして活躍していたとはいえ、前田プロの指導の下、5年の間研鑽を積み20歳でプロテストに合格しました。当クラブの村岸充雄プロも同時期、箕面GCで研修生として井戸木プロと同じ釜の飯を食った仲で、前田プロを師匠とする兄弟弟子になります。

井戸木プロの左手首にサポーターがいつも巻かれています。この手首を負傷した原因は何を隠そう、奈良柳生CCでの造成完了時にコース視察で試し打ちした際、芝の活着していない固い地面でショットした際に傷めたものです。井戸木プロの手首のサポーターを見るたびに、胸が痛みます。

弟弟子の村岸プロを可愛がってくれており、奈良県オープンやプロ会の定例競技などが当クラブで行われる時には必ず参加してくれます。来場時には必ず挨拶してくれる折り目正しい好人物です。シニアとはいえ日本選手としてメジャー制覇を果たした快挙は、樋口久子の全米女子プロ（1977年）以来だけに、箕面GCメンバーのみならず日本のゴルファーとして喜ばしい出来事でした。

QT1st のデータから見れば・・・・・・・・

日本ゴルフツアー機構（JGTO）主催のクオリファイングトーナメント（QT）の1stステージが8月8日に終わって、メンバーの皆様やゴルフ仲間から「今年の各選手の成績はどうでしたか？」と聞かれることが多々あります。「トップが3日間で17アンダー、しかも17歳の高校生」と答えると、皆さん一様に驚かれます。この選手は池村寛昭選手で成績は初日65、2日目68、最終日66トータル199でした。池村選手はもう高校を中退し早々と「プロ宣言」しツアープロを目指しています。

7150ヤード、パー72、コースレート73・9の当コース、初日には須田将太選手が33、29の62というコースレコードタイをマークしました。「奈良柳生CCはコースレート73・9と難しいように見えますが、案外易しいね」という声も聞かれます。確かに上位の選手の成績を見ると当コースは、容易（たやす）いコースに見えますが、けっしてそうではありません。

JGTOからいただいたデータを見るとよく分かります。初日の全出場選手137名の平均ストロークは75・723でコースレートをオーバーしています。アンダーパーが23名、イーブンパーが11名で103名がオーバーパーでした。

2日目も全出場選手135名（2名棄権）の平均ストロークが76・430と初日より悪くなっています。この日のトップスコアは66で以下アンダーパーは14名、イーブンパーは8名でオーバーパーは113名となっています。

最終日は130名の出場選手で平均スコアが75・569でした。最終日のアンダーパーは22名、イーブンパーは9名で99名がオーバーパーでした。3日間の平均ストロークが75・907でコースレート（73・9）を大きくオーバーしています。

QTの1stはプロだけでなくトップアマに近い選手も出場できるため、上位と下位の選手のレベルの違いもあるようです。ただいえることは1stとはいえ、トップ10に入っている選手はアマチュアでもトップクラスで2nd、3rdへと勝ち進んで行く実力のある選手ばかりです。さらにファイナルへ進む選手も2、3名いるはず。トップの池村、2位の須田、3位のYi Keum Chang、4位の成松亮選手などは近い将来ツアープロとして名が出てくるだろうと思います。期待しています。

日本のゴルフ場数、ゴルフ場利用者数について

一般社団法人 日本ゴルフ場事業協会（NGK）から「ゴルフ場利用税の課税状況からみたゴルフ場の数・利用者数等」の平成24年度をまとめた小冊子と「NGKだより10月号」が送られてきました。この「ゴルフ場利用税の課税状況からみたゴルフ場の数・利用者数等」は昭和32年から平成24年までの56年間に及ぶ「ゴルフ場数」と「ゴルフ場入場者数」がデータとして記録されています。このデータは課税状況から見た数値をまとめているため、日本のゴルフ場数やゴルフ場利用者数など最も信頼の置ける正確なデータといえます。

このデータを「NGKだより」が判り易く解説していますので、ご紹介します。

<ゴルフ場数>

日本のゴルフ場数は昭和32年度に116ゴルフ場であったものが、第1次ゴルフブーム（昭和34年～39年）219、第2次ゴルフブーム（昭和48年～52年）487、第3次ゴルフブーム（平成元年～5年）487のゴルフ場が開場した。平成14年度には日本のゴルフ場数は2460になった。バブル経済崩壊後、景気低迷により遞減傾向に転じ平成24年度末には2405となっているそうです。

<入場者（ゴルフ場利用者）>

平成24年度の入場者数は、平成23年度に比較して70歳以上者が147万人増加したことが大きく貢献して242万人増加の8675万人となったものの、平成22年度との比較では132万人減少しており、東日本大震災前までには回復していません。

年々、70歳以上者の全入場者に占める割合が上昇しており、平成24年度は14・7%になっています。

1ゴルフ場当たりの入場者数では平成元年度の52243人が最高値で、平成24年度は36069人とピークから16000人余も減少しています。

<ゴルフ場利用税>

平成24年度のゴルフ場利用税額は505億8700万円で過去最高だった平成4年度の1035億7000万円に比較して529億8300万円の減少でほぼ半減しています。利用者数の減少に加えて70歳以上の免税利用者の増加、さらにプレー料金の低価格化により税額も等級が下がることにより税率も下がったことによるものと思われます。

こうしたデータを見る限り、ゴルフ場業界はまだまだ厳しい冬の時代が続いていきそうです。

ゴルファーがゴルフ場を利用するたびに支払うゴルフ場利用税ですが、ゴルファーはプレー代金の総額で認識しているせいか意外に利用税を支払っているという意識に乏しいようです。そのため、NGK加盟ゴルフ場ではプレー料金にいくらの利用税を支払っているのかを認識してもらうために、写真のプレートを作成しフロントに設置しています。ゴルフ場利用税と消費税の二重課税を負担している理不尽さを認識していただき、消費税の利率アップに伴う利用税撤廃の声をさらに大きく上げていただきたいと思います。

ゴルフルールで疑問に思うこと

2月も終わり今日から3月です。寒々としていた2月のゴルフ場でしたが、3月の声を聞くと皆さんゴルフの虫が騒ぐのかエントリーも活発に入ってきています。いよいよ球春到来です。

ところでゴルフルールについて日ごろから疑問に思うことがあります。グリーン上のピッチマーク（ボールマークともいう）は直すことがルールでは許されています。許されているというよりもマナー・エチケットで自分がつけたピッチマークは直さなければならないはず。

しかしながら、先行組のプレーヤーがスパイクを引きずったりした引っかき傷を直すことをルールは認めていません。なぜなのか私には理解できません。会合などで関西ゴルフ連盟の競技委員の方と一緒にいる機会があった時に、その疑念を伝えると「私もスパイクシューズ跡の修復がなぜルール違反になるのか判りません」と明快な答えを返してくれません。

グリーン上の芝の不整の修復に関してピッチマークがよくてスパイクの引っかき傷などを直すのがなぜいけないのか理解できません。スパイク跡の修復が駄目なら、悪意？あるプレーヤーが後続組のプレーヤーに対する嫌がらせ、あるいは不利なグリーン面を意図してスパイク跡をつけて行くことも可能です。

もちろんゴルファーはみな誠実で不正を行わない性善説が前提ですから、そのような行為・行動はしないと思いますが・・・・。

当クラブの二人のプロにスパイクの引っかき傷などを直してはいけないルールの根拠は何か？と問うと二人とも「なんででしょうね。私らも判りません。パットライン上の不整を直すことが特別有利になるとも思いませんけどね」の答え。

なぜライン上のスパイク跡などの修復をしてはいけないのか、どなたかご存知であれば教えてください。

ゴルフマナーを大切に

ゴルフを楽しむためには、一人一人が自覚を持ち、マナーと礼節をわきまえながらプレーすることが大事であると説くゴルフマナー研究家の第一人者・鈴木康之氏の「ピーターたちのゴルフマナー」（ゴルフダイジェスト社発行）を久しぶりに読み返しました。ゴルフ業界に勤めて40余年、いろいろなゴルファーの姿を見てきました。ゴルフの上手下手よりも他人やコースを思いやるマナーに長けたゴルファーこそが尊敬に値しますが、残念ながら尊敬に値するゴルファーは絶滅の危機に瀕しているようです。

ゴルフマナーとはゴルフの伝統的精神にのっとった本来的な作法や紳士淑女としての普遍的な礼儀作法であり、時代の移り変わりを越えて尊ぶべきものである。たとえば他のプレーヤーへの配慮やコースを大事にする努め、さらにはコースに職業や地位を持ち込まない平等の精神など同氏は説いています。

マナーを知らないとどうなるか？打ち方のミスはスコアではね返せる。続行不可能なミスショットをしても、ペナルティを払ってルールで救済される。ルール違反でさえもペナルティを払って許される。ところがマナー違反には救済や許しの決まりはありません。マナーを知らないと、ゴルフができなくなることを皆は知らないという。

マナー知らずは人に嫌われ、仲間が少なくなり誘われなくなります。それは人のプレーを妨げ、人を不愉快にさせるからです。ゴルフは誰もが誰とでも一緒にゲームを楽しめるスポーツです。シングルとビギナーでも男性と女性とでも、さらには若い人とお歳を召した人とでも一緒にプレーを楽しむことができます。そのためにはゴルファーとしてのマナー・エチケットをちゃんとわきまえていることが前提条件となります。マナーにはその人の人格が表れると鈴木康之氏は書いています。

ゴルフは上手いが無作法なゴルファーよりも、下手でも人を思いやる、他人に不愉快な思いをさせないゴルファーこそが尊敬に値すると思います。鈴木康之氏の著書からの受け売りです。

スタート前の段取りについて

“マナーを大切に” は、かなりの反響がありました。ご覧いただいた方から「タメになりました。ゴルフは上手いだけでは駄目ですね。ゴルファーとしての品格、品性を備えないと。あのブログを読んで反省しました」というような声が結構寄せられました。確かにゴルフは上手いが、自分本位で周りの空気も読まない自己中なゴルファーや粗野なゴルファーが多いです。ゴルファーひとり一人が自覚をもち、マナーと礼節をわきまえてプレーすることが大切ですね。

本日はクラブ三大競技のひとつ理事長杯の予選が行われました。競技委員とともにスターターの席に座りスタートを見送りました。13組50名が予選に出場しました。時間に遅れることなく皆さん順調にスタートしていきました。

今回は鈴木康之氏書いている「スタート時間」についてご紹介しましょう。

「スタート時間とは、プレーヤーがスターティングホールティーグラウンドに集まる時間ではなく、オナーがアドレスに入る時刻のことである」と教えています。確かにスタート時間といえば漠然とスタートするティーグラウンドに集まればよいというような認識をもつゴルファーは多いようですが、鈴木氏は次のように明確に記しています。

「プレーヤーがティーグラウンド脇へきてからオナーがアドレスに入るまでには、数多くの段取りがある。だから、ティーグラウンド脇へ集まる時間は、スタート時間よりずっと前でなければならない」とあり、スタート前の必要な段取りとして

- ① 同伴競技者とキャディがカートの周りに集まり、自己紹介などの挨拶。
- ② スコアカードに同伴競技者の名前を書き込む。
- ③ キャディが4人それぞれのクラブ本数や番手を確認。
- ④ ボール、ティーペグ、ボールマーカー、グリーンフォークなどをポケットに用意。
- ⑤ 同一ブランドのボール使用者がいないかの確認。
- ⑥ 打順を決める。
- ⑦ 初めてのコースなら、プレーの進行上の決まりごとやヤーダージの見方、戦略上の注意やサゼスチョンをキャディに聞く。
- ⑧ 素振りは素振りをしていい場所で行う。

一部除外していますが、なるほどスターティングホールですべき段取りは結構あるものです。当然この段取りに3、4分はかかります。前組がスタートしたら後続の組のオーナーは速やかにティーアップしてプレーの用意ありの意思を示さなければなりません。そのためには後続組のオーナーを決める必要があります。だから前述の①～⑧までのことは事前に済ませておかなければなりません。しかし、前組のプレー中は話し声や物音を控えなければいけませんから、スタート時間の10分くらい前に集まりスタート前の段取りを済ませておかなければならないと鈴木氏は書いています。

スタート時間の10分前にクラブハウスに到着し7分前にフロントでチェックインしながら「(スタートに)間に合った」という方がいますが、もってのほかと言わざるを得ません。胸に手を当て心当たりのある方は、以後お気をつけていただきますように。

ボールはあるがままに打て

‘ Play the ball as it lies ’ (ボールはあるがままに打て) 即ちノータッチプレーがゴルフゲームの基本であることは皆さんよくご存知だと思います。コースコンディションの悪いゴルフ場やプレーの進行を早めるためにスルーザグリーンに限って6インチプレー適用をローカルルールで表示しているゴルフ場があります。プライベートコンペでも6インチOKにしているケースもあります。

ゴルフというスポーツの面白いところは自身の実生活や人生で遭遇する出来事を教訓的に経験できるところにあります。素晴らしいティーショットが狙い通りフェアウェーに飛んだのに、セカンド地点のボールの所に行ってみると不運にもディボット跡にすっぽりはまっていることがありますし、落下したボールがスプリンクラーの蓋に当たって跳ね返り木の根っこに止まったりすることが多々あります。なんという不運、ナイス (グッド) ショットしたのに・・・なんという不公平かと嘆きたくくなります。

しかしこの不公平こそがゴルフのスリリングな面白さであり、実生活への教訓的な試練でもあるのだと我が敬愛する鈴木康之氏は書いています。さらに氏はナイスショットの功と不運を取引して6インチ動かすようなルールを適用してはならないと断言しています。たとえローカルルールで6インチの適用を認めていても、そこ (ディボット跡や木の根っこなど) に打った自分が悪いのだと切り替え、この苦境からいかに脱し、最小限の被害 (スコア) にとどめるか、最良の手立てを考えることこそゴルフを楽しむに値するゴルファーだといっています。

ゴルフには運・不運はつきものです。ショットだけでなく、組合せで同伴者との相性やついたキャディの良し悪しなどゴルフには際限なくあります。幸運なショットやパットもあれば、アンラッキーなこともたくさんあります。ゴルフはいかにラッキーを継続させるか、また不運に見舞われたら不運の連鎖に陥らないように、最小限の被害でいかに正常に戻すかなどゴルファー自身の精神力、判断力が問われるスポーツです。これこそがゴルフの面白さであり、他のスポーツにない知的スポーツだといわれている所以でもあります。甘言に惑わされず、あるがままに打つを忘れずゴルフを楽しんでください。

雨傘の取り扱いについて

6月4日に早々と梅雨入りしたものの、比較的好天気が続き、雨が降っても夜の中に降り朝には雨が上がっているという具合に、ゴルフ場関係者には好都合な天気が続いていました。しかしながら本日は、昨夜からの雨が降り続き予報では夕方近くまで降るとのこと。せっかくの日曜日のゴルフが雨中プレーとなり残念ですが、幸い雨量は少なくレインウェアを着るほどでもないようです。

雨の日のゴルフは誰でも嫌なもの。しかしながら自然の中で行うゴルフは雨、風、霧といった悪天候は自然のハザード。悪天候から逃げたくなるのは我侭です。365日、晴天が続くわけがありません。雨の日のゴルフは快適とはいえませんが、天が与えたハザードに果敢に挑戦する強い心を持ちたいものです。

雨の日のプレーといえば傘がつきもの。プレー中の雨傘の取り扱いについて日ごろ気になっていることを少し書いておきます。昔は自分の雨傘を持って行きましたが、今はゴルフ場のサービスとして無料（昔は有料貸傘）が当たり前となっています。それだけに雨傘は借り物であることを頭におき、丁寧に扱うようにしたいものです。

雨傘は、ショットする際に下に置きますが、その時は開いたままでなく必ず閉じて置くように心がけてください。風の強い時など開いたまま置いておくと、傘が動いたり飛んだりしてプレーの邪魔になりますし、風に飛ばされて傘の骨が折れたりします。借り物の傘だから別に構わないという気はないでしょうが、往々にして乱暴に取り扱いがちです。借り物だからこそ、より丁寧に扱うようにお願いします。

それとグリーン上での雨傘の置き方ですが、旗竿、クラブと同じように傘も原則グリーン外に置くように心がけてください。グリーンにやむを得ず置かなければならない時は、開いたままでなく必ず閉じてそっと置くようにしてください。開いたままグリーン上に置いていて風に吹かれて飛ばされた際、傘の先がグリーンを傷めたりすることがありますので、極力グリーン外に置くようにしてください。

英国のリンクスこそゴルフコースの原点

全英オープンを今年もTV観戦しました。期待の松山英樹や石川遼ら日本人選手も果敢に挑みましたが、あのタフなリンクスに返り討ちにあってしまいました。

毎年、全英オープンが行われるリンクスは、アメリカや日本のゴルフ場のように人工的に整備されたゴルフ場とは違い、灌木、草むら、クリーク、穴地といった自然の地形を100%生かしたネイチャーコースです。これに加えて強い風や雨などの自然現象を含めて戦わなければならない。庭園化された日本のゴルフ場で育ち、主戦場として戦う日本人プロが1週間前にリンクスにきて数回の練習ラウンドで勝てるほど甘くはない。

ゴルフ作家・鈴木康之氏はリンクスのことをこう書いています。

「英国ではリンクスコースのことをネイチャー・コースといい、人工的なコースとは同一視しない。ここにみだりに人工的な手を加えることは神物冒瀆だといまだに言われている。ネイチャー・コースの地上にある隆起、穴地、クリーク、灌木などのすべて、風、雨など空中に起こるすべてはゲームに欠かせないハザードであり、愉快の要素として楽しむ。自然のアンジュレーションを生命とする球技はゴルフしかないのではないだろうか。

リンクスから世界にゴルフが広がった過程で、コースは庭園化した。ネイチャー・コースがあまりにも困難なために、易きに走った。それでもなおゴルフ・プレーはままならない。ゴルファーたちはプレーの仕方すらも易きに走りたがってきた。今日私たちいるのはそうした過程の先にある世界だと考えてチェックし、本来を忘れないように努める必要がある。

野っ原があり、ここがグリーンと場所を定め、穴を一つ空ければホールとなってゴルフができる。3ホールもあれば十分だ。六回まわれば正規の1ラウンドだ。クラブハウスはいらない。友だちがいればいい。取り決めは、ボールを打って、より少ない打数で穴に入れたほうが勝ち。いったん打ち出したらボールには触らない。打てないところに転がったら、罰打を払い、有利にならないところから打ち直してプレー続行。そうと決めたら握手してティーオフだ。これがゴルフの原点である。今でもこれで十分である。」

易きに走らないノータッチ、自分に厳しくこそがゴルフの精神であることを忘れず楽しんでください。

ゴルフは楽しい、そして面白い

ゴルフというスポーツは実に楽しい、そして面白い。何故にかくも楽しく面白いのだろう。ティーグラウンドに立ち青々とした広大なフェアウェーに向かって放つショットの醍醐味、爽快感は当然ですが、その放たれたボールの行方によって面白さはさらに倍増します。

ティーショットしたボール全てが全てフェアウェーの真ん中に行くわけではありません。プロやシングルゴルファーでも7割の確率で行けば御の字。スコアが90～100の月イチゴルファーなら18ホールで2、3発会心のショットが出る程度でしょうか。放たれたボールがナイスショットであっても落ち所によってはディボット跡に止まっていたり、スライスやフックしたボールが林の木に当たって跳ね返ってフェアウェーの真ん中に止まっていたりします。

ゴルフという人事の及ばない運不運こそがゴルフの真髄であり、奥の深い面白さといえます。木の根っこに止まったボールに対して被害を最小限にとどめるべく対応するか、一か八かのギャンブルで刃向って行くかといった局面が18ホールのプレー中には何度も遭遇します。この運不運への対応処理能力こそがゴルファー自身の人生における現実対応能力を表わしています。

ゴルフというスポーツは審判のいないプレーヤー自身がルールに則り自己申告するスポーツです。ゴルファーは嘘はつかない正直を前提としたゲームです。ホールアウト後のスコアは自己申告を旨とし、池に入れたりOBを打てばしかるべく罰打を付加すればプレーは続けられます。不正行為や虚偽申告には罰打はつかない代わりに失格という重いペナルティが付くだけでなく、人間性まで疑われ友情や信頼を失くしてしまいます。

取引先や会社の上司・部下などとのゴルフの機会もあると思いますが、立場はどうあれ同伴プレーヤーのこうしたプレーぶりを見て性格やら人間性がよく分かります。スコアにこだわり周りが見えないゴルファーが増えています。同伴者はこうしたプレーヤーの一挙手一投足をよく見ているものです。お気をつけて下さい。

何ゆえにゴルフは紳士のスポーツといわれるか

数あるスポーツの中で競技規則の第1章に「エチケット」「コース上の心得」が明記されているのは恐らくゴルフだけです。ゴルフはいかにエチケット・マナーを重んじられるスポーツであるかということがよく分かります。ゴルフは技術以前に人間性が問われるスポーツであることを最近のゴルファーは知らないように思えます。

ゴルフの上手い下手というよりプレーを通じて同伴競技者といかに楽しく愉快地に過ごすがゴルフというスポーツの妙です。老若男女が同じステージで楽しめるゴルフは、技術の巧拙よりもエチケット・マナーを遵守することこそが基本条件です。ゴルフの上手下手よりも人間としての品性・品格こそがゴルファーに求められます。

品性・品格とは、まず人を不愉快にさせない気遣いと常識をもった振る舞い、そして場の雰囲気を読み空気を和ませる会話や行動をもつ人といえるでしょう。いわゆるジェントルマンと評される人物のことです。よく「ゴルフは紳士のスポーツだ」といわれます。

クラブハウス、コースなど限られたゴルフ場のスペースで多くのゴルファーが集います。ひとり一人のプレーヤーが快適によりスムーズに楽しむために、安全かつ迅速にプレーしていただくために、他のプレーヤーへの配慮や心遣い、そしてコースをいたわり大事に使う気持ちがゴルフ規則の第1章「エチケット」の条文になっているのです。

最近はこうしたゴルフ本来のエチケット・マナーが継承されずにゴルフの巧拙で判断してしまう風潮があります。ゴルフは下手と上手と一緒に回って楽しめるスポーツです。ゴルフは下手でも同伴者に迷惑をかけない気遣いやプレーのペースを狂わせないようなプレーをすればいいのです。逆にゴルフの腕前はシングルクラスであっても自己中心的なマイペースで同伴者と協調できないモンスター・ゴルファーが増えてきたように思えます。

敬意を払われるゴルファーというのは、けっしてゴルフが上手いからではなく、同伴競技者を含めてその場の空気を和ませる会話や振る舞いを身につけている人こそ尊敬に値するゴルファーであることを肝に銘じていただきたいものです。

球聖ボビー・ジョーンズのエピソード

50数年前までは「ゴルフは紳士のスポーツ」といわれていました。しかし高度経済成長期やバブルを経て「ゴルフは完全に大衆化スポーツ」になりました。

ゴルフは紳士のスポーツの“紳士”を強調するのはプレー料金が高く高嶺の花であったこともありますが、高貴なスポーツであるという意味も含まれています。何よりもジェントルマンシップに則ったスポーツであるからこそ“紳士のスポーツ”といわれていた所以です。

昭和40年代からゴルフが大衆化するとともに、ゴルファーのマナーやエチケットが乱れに乱れています。ゴルフという競技は審判のいない自己申告即ち、自らの行動は全て自らが負う自己責任を旨としたスポーツです。

審判がいないことを良いことに不正やズルをする輩（やから）が後を絶ちません。ナイスショットした球がディボット跡にあれば誰も見ていないことを良いことに数センチ蹴り出したり、OBラインの外にある球を「セーフ！」と叫び同伴者の確認を待たずにさっさと打ち出したりと、この手の話は枚挙に遑（いとま）がありません。

このような明らかなルール違反ではないものの、同伴者や前後のプレーヤーに対する気遣いや配慮に欠けた無神経なプレーヤーも増殖しています。恐ろしくプレーの遅い人、あるいはグリーンにボール跡をつけたにもかかわらず修復しない人、ゴルフシューズでグリーン面を引きずって傷つけたりする非常識なゴルファーも増殖中です。

こうした非常識なゴルファーの振る舞いを見たり聞いたりする度に思い出すのが球聖ボビー・ジョーンズのエピソードです。

1925年の全米オープンでのこと。B・ジョーンズは1打リードで優勝に限りなく近かったのですが、ラフにある球をアドレスした際に球が動いたと自己申告して自ら1打罰付加してスコアカードを提出しました。この結果、プレーオフとなり敗れて優勝を逃してしまいました。アドレスの際に球が動いたのを誰も見ていない、B・ジョーンズが申告しなければ誰も判らず1打リードのまま優勝していたかもしれません。

このB・ジョーンズの行為に人々は賞賛したといいいます。しかしB・ジョーンズ曰く「ゴルファーとして当たり前のことをしただけ。人のお金を盗まなかったからといって、

私を褒めるのはおかしい」と平然と語ったといいます。

プレー中に悪魔のささやきが聞こえてきたら、このB・ジョーンズのことを思い出してください。

ローカルルールの悪法「前進4打」「6インチプレース」

ローカルルールの悪法の最たるものは「プレイング4」と「6インチプレース」だろう。プレイング4とは、ティーショットをOBした場合、プレーの進行をスムーズに行かせるため、前方特設箇所（特設ティーとしている所もある）から打って4打（プレイング4）としてプレーする救済措置です。いわば体のいい遅延防止策です。

確かにビギナーが何度も何度もOBを繰り返せば同伴競技者はもちろん、後続組も詰まってしまうコース内は込み込みになってしまう可能性があります。だからといってティーショットをOBした者が特設箇所からプレイング4でプレーを続行するというのはいささか腑に落ちません。

ゴルフというゲームはティーグラウンドからティーショットしたボールをグリーンのカップにカップインして打数を競うものです。それをティーショットしたボールがOBだったからボールを手にもって特設箇所に歩いて行く。ゴルフはティーショットしたらグリーンに上がるまでは一切ボールに触れてはいけないという大原則あるにもかかわらず、ティーグラウンドから特設箇所までボールを持ち運ぶのは、ゴルフの本筋から外れているように思えます。

ビギナーの救済措置ということもあるかもしれませんが、一律OBは特設箇所からプレイング4ではなく、せめて打ち直しかプレイング4かの選択する権利はプレーヤー自身に判断させるべきだと思います。

もうひとつの悪法「6インチプレース」。こちらはコースを保護するため、あるいはコースコンディションが劣悪な状態だから6インチの範囲内でボールを動かしても良いというもの。ゴルフはあるがままの状態（ライ）でボールを打って行くのが大原則。芝の張り替えた箇所や発芽前や発芽中の芝を養生するための限定的範囲なら修理地にするべきで、コース全体6インチにするというのは、「18ホールのコース状態がノータッチでプレーできない最悪のコースです」とゴルフ場自ら公言しているようなものです。

雨の日に思うこと

ゴルフはご存知のように自然の中でプレーを楽しむスポーツです。暑さ寒さはもちろん風が吹いたり雨が降ったりと自然の変化に対応して行くところにゴルフというスポーツの妙味があります。

とはいえ、ゴルフ人口の7割近くを占める60歳以上のシニア世代には、もはやこの理屈は通用しなくなってきました。暑い夏や寒い冬それに雨が降れば「健康管理のためにゴルフをしているのに、過酷な気象条件の中でゴルフして体をこわしては元も子もない」などの理由で簡単にキャンセルされる方が多くなってきました。

血気盛んだった壮年時代にゴルフに夢中になった団塊世代も暑さ寒さに加えて雨風に簡単にギブアップしてしまいます。雨のゴルフは快適とはいえませんが、帽子やレインウェア、シューズ等々ゴルフ用品も年々優れた商品が開発され市販されていますのでそれなりにゴルフも楽しめるはずなんですがねえ。

エントリーした日がいつもいつも晴れの日や春・秋の爽やかな日ばかりとは限りません。その日が雨であったとしても大自然の厳しさに対峙して堂々と立ち向かって行く気概を忘れずにゴルフを楽しみたいものです。

昨日は今冬一番の寒さで、近畿でも雪が降ったようです。奈良県でも阿騎野GCでは積雪のためクローズになったとか。オークモントGCやヤマトCC、春日台CCなど標高400メートル以上のゴルフ場は朝方に薄っすらと積雪があり、スタート時間を遅らせたとのことでした。

ゴルフの和製英語について

ゴルフの和製英語を批判したりウンチクを語るゴルファーを時折見かけますが、和製英語に目くじら立てて正しいゴルフ英語を使わなければならないのかなあと時々思います。ここは日本であり、日本のゴルフ場でプレーする限りにおいては和製英語であっても互いに意味が通じればよいと思うのですが・・・・・・・・。

ティーショットが真っ直ぐ遠くに飛ばば「ナイスショット！」いいじゃないですか。これをしたり顔で「ナイスショットなんて日本だけで通用する言葉、本当はグッドショットといわなければいけないだよ」と訳知り顔でのたまう人がたまにいます。

テレビのゴルフ中継でもグリーン上のパッティングで、やや右に切れるのを「スライスライン」、左に切れるのを「フックライン」などアナウンサーや解説者が使っていますが、これも和製英語で本来のゴルフ英語ではありません。一緒にテレビ観戦している訳知りゴルファーは「スライスやフックラインという言い方は間違いだ。スライスやフックというのはクラブで打ったボールが空中で大きくそれて右にカーブするのをスライスボールというのであって、パットしたボールのそれ具合を表現するのにスライスやフックというのは外国では通用しない」とウンチクを披露する方がいます。

こうしたたぐいの和製英語は実に多い。各ホールの最初に打つ人を「オーナー」（正しくはオーナー：名誉）といったり、「ナイスパー」「ナイスタッチ」「ワンオン」「パーオン」などなど数え上げればきりがありません。表彰パーティで優勝者のコメントで「パートナーに恵まれて」という言葉もよく耳にします。

これだけ多くの和製英語が日本のゴルファーに定着しているのですから、いまさら正しいゴルフ英語を使いなさいは逆に愚かしいと思います。正しいゴルフ英語（用語）を使うべしなどと野暮なことをいわず同伴競技者と互いのプレーを称えあったり、励ましたり、助言（競技ではルール違反ですが）したり、慰めあったりするコミュニケーションの手段として和製英語が飛び交っても良いのではないのでしょうか。

ルールをしっかりと身につけよう

「クラブ競技に参加する人でルールやマナー・エチケットをわきまえていない人が結構いる」と、時々競技参加者から苦情を聞くことがあります。

ゴルフのルールはルールブックを読んだだけではなかなか理解できません。実際にその場に遭遇してこそルールブックに書かれている処置が理解できるのですが、机上でルールブックを読んだところですぐ理解できるものではありません。

本来、ゴルフルールはもっと単純で、ティーショットしたらグリーン上に上がるまでは一切ボールに触れずに打って行くという単純明快なもので、クリークや池に入ったり、OBゾーンに行ったり、木の後ろや枝に止まったりしてボールを打って行くことができない場合、ルールで救済しプレーの継続を可能にするために制定されているもので、昔はわずか13条だったそうです。

そのわずか13条のゴルフルールが今や34条100項目を超え、付属規則だけでもルールブックの約半分を占める膨大な量になっています。プレーを公正に行おうとするために、様々なトラブルから救済を求める多くのゴルファーの要請に対してルールが制定、改正が行われてきた結果だと思えます。

ルールの救済処置は、プレーを継続させるための救済であって、これを利用して自分に有利に処置することは戒めなければなりません。ゴルフは何よりも「自分に厳しく」が大前提で成り立っている競技ですからルールの欠陥についてインチキを行うことは厳に慎まなければなりません。ルールブックの裏表紙に明記されている次の言葉を肝に銘じて、しっかりルールブックを熟読してください。

球はあるがままにプレーせよ
コースはあるがままにプレーせよ
それができないときは、
最もフェアと思う処置をとる
最もフェアと思う処置をとるためには、
ゴルフ規則を知る必要がある

スロープレー問題を考える

スロープレーはどこのゴルフ場でも悩みの種です。ハーフのプレー時間はおよそ2時間をメドにしているゴルフ場が多い。関西ゴルフ連盟支配人会でもスロープレー防止のためのポスターやマーシャルグッズを制作し加盟ゴルフ場に配布しています。

ゴルフ場のレイアウトや難易度などの差もありますが、ハーフプレーは2時間あれば大体回れるはずです。2020年の東京オリンピックのゴルフ競技の会場を予定している名門・霞ヶ関CCは「ハーフ1時間50分でプレーしてください。」とロッカールームなどに掲示されています。霞ヶ関CCは乗用カートのない全ホール歩きのプレーで、しかもOBなどは全て打ち直しでありながらハーフ1時間50分プレーを奨励しています。

実際に1時間50分でラウンドできるのかキャディさんに尋ねたところ「皆さん、大体1時間50分までで回ってこられますよ。」とのことでした。しかも霞ヶ関CCのスタート時間の間隔はなんと6分間隔。ふつうは7分間隔、当クラブは8分間隔ですが、コース内で混んだりしないそうです。

話を元に戻して、スロープレー問題ですが、スロープレーヤーが一人いるだけで間違いなく、その組はスロープレーになってしまいます。スロープレーヤーは同伴競技者のみならず後続組にも多大な迷惑をかけてしまいます。

人には一定のプレーリズムがありますし、アドレスしてショットするまでに一定のルーティーンがあります。が、周りから見れば無駄に時間をかけてわざとプレーを遅くしているように見える人もいます。こうしたスロープレーヤーの多くは、残念なことに自分のプレーが遅いと判っていない人がほとんどです。

スロープレーヤーを見ていると相対的に周りの空気を読まないし、他の人に対する気遣いがない自己中心的なマイペース型の人に多いように感じます。

スロープレーヤーでも工夫次第で早くなります。ボールを打つ以外の作業？を早めるようにすれば大幅短縮になります。例えばティーショットの準備を自分の番までにきちんとしておく。自分の番がきたらさっとティーアップして打てるようにする。次打地点に行く時はあらかじめ目測して2、3本のクラブを持っていくとか、グリーン周りなどでは必ずしも「遠球先打」にこだわらず、本来打つべき順番の人が準備できていなければ「お先に打ちます」と声をかけてプレーすればかなりの時間短縮につながります。

アドレスに入る前に何度も素振りを繰り返す人がいます。これもその人にとってのルーティーンかもしれませんが、何度も素振りを繰り返しても100%うまく行くかといえば決してそんなことはありません。何度も素振りを繰り返すルーティーンは逆に雑念が入って却って逆効果を招くと倉本プロは言っています。

倉本プロいわく「構えに入ったら3秒以内に打ち終える」人間がせいぜいじっとしているのは3秒まで、構えて4秒以上かけると頭に思い描いていたイメージが消え失せて筋肉も固まる。だから3秒以内に打ち終えること、と。

ゴルフに出会えたことに感謝

ゴルフは面白く楽しい、だけでなく難しいし奥が深いスポーツでもあります。ゴルフというスポーツに出会えたことに感謝します。ゴルフを通じていろいろなことを教えられました。

公正・正直・自製の精神を学びました。また挑戦・勇気・向上・計画性といった困難に立ち向かう精神力も養うこともできました。何よりもゴルフは人に対する敬意・思いやり・感謝といった寛容の精神を教えてください。

ゴルフマナー評論家・鈴木康之氏は「ゴルフとの出会いに感謝しよう」でこう書いてます。ゴルフができる幸せ、ゴルフと出会った幸運な人生に感謝しているなど七つの恵みと称して次のように書いています。

まず、ゴルフができる健康な体であること。二つ目にゴルフができる家庭であること。三つ目は仕事の恵み。会社や仕事、商売に破綻があればゴルフどころではない。四つ目は、高いゴルフができる財布の中の経済力。五つ目は、一緒に遊んでくれる友だちがいるという恵み。六つ目は、コースの人たちだ。コースがなければゴルフはできない。そして七つ目の恵みは、ゴルフの先人たちである。かくも面白いゲームを編み出し、営々とその面白さを伝承してきた先人たちに感謝しなければならない、と。

ゴルフがシニア世代の健康管理のための年寄りのスポーツに成り下がっており、若年世代を取り込む名案がないままゴルフ人口が衰退しつつあります。業界挙げてジュニア育成などに注力していますが、アスリートゴルファーを育成するだけでなく、ゴルフを通じて得られる精神や人格形成に役立つことをアピールして小・中・高校生の体育のカリキュラムに組み入れてもらうような働きかけを日本ゴルフ協会など業界団体はすべきだと思います。

同伴者を意識せずパーおじさんに挑む

随分前の話で記憶は定かではありませんが有名なゴルファーがっていました（書物で読んだのですが）が、ゴルフというゲームは本来コースのパーに対して挑んで行くものであって、目の前の同伴競技者が相手でも敵でもない。したがって同伴競技者のプレーに惑わされたりせず、平常心でそのホールを攻略して行くことに集中することが肝要だとか。

確かにコース設計者は様々な罠や仕掛けを随所に企てています。手強いコース設計家の意図を見破り安全なパルートを模索し攻略して行くことが知性派ゴルファーの楽しみ方ではないでしょうか。

広大な自然の中に展開する18ホールは、池や小川などの景観美を兼ねたウォーターハザードや人工的な白砂のバンカーを巧みに配置された造形など戦略性と景観性を調和させたコース設計者の造形作品でもあります。

ティーグラウンドからグリーンに向かって淡々とボールを打って行くのではなく、そのホール全体を見渡し設計家の意図する戦略性と景観性を読み解いてからプレーして行くことこそ、ゴルフの奥深さと醍醐味があるのではないと思います。

真のゴルファーは減った

あるゴルフ書のPR文か何かで見た記憶がある。それは「ゴルフをする人は増えたが、ゴルファーは減った。ゴルフの醍醐味は、いいスコアを出すことではなく親しい人々を得ることだ」なかなか味わい深い言葉だ。

ゴルフの基本はまずエチケットから始まる。ルールブックは第1章「エチケット」から始まる。50年近く前にゴルフを始めた時、先輩たちから「ゴルフは紳士のスポーツだ。なに故に紳士のスポーツであるか」というとエチケット・マナーを重視し遵守することから始まる」と口酸っぱく教えられたものです。お陰でゴルフというスポーツを通じて社会人としてわきまえるべきエチケット・マナーを身につけることができました。

ところがエチケット・マナーを身につけた先人ゴルファーは減少し、ここ十数年、ゴルフを始める初心者にしっかりエチケット・マナーを教える先輩ゴルファーはいなくなりました。他のプレーヤーの邪魔にならないようにする心配りや安全にゴルフを楽しむための基本的なエチケットやマナーであるのですが、これをわきまえない無知なプレーヤーに善意でもって注意しようものなら「口うるさいゴルファーだ」「何を偉そうに」など反省どころかふて腐れる輩のなんと多いことか。

エチケット・マナーを指導しようという善意のゴルファーは逆に敬遠されるし、さらにはいちいち細かいことを注意する嫌味なゴルファーだと多くのゴルファーから遠ざけられてしまいます。正しいことを教えていながら敬遠されるなど間尺に合わない。だからみんなエチケット・マナーに反した行動をするプレーヤーを見ても黙殺してしまうようになってしまったのだろうか。

ゴルフは健康に良いは本当だった

TBS系列で放映された三宅裕二司会の「健康カプセル！ゲンキの時間」でゴルフは健康に良いは本当だったと番組内で検証されました。

ゴルフ場経営者の団体である一般社団法人 日本ゴルフ場経営者協会（NGK）がこの番組のスポンサーである興和株式会社から視聴許可をとりNGK会員ゴルフ場にその番組を収録したDVDが配布されてきました。ゴルフが健康に良いといった内容であることから、多くのゴルファーに視聴してもらいたいと付記されていました。

内容をピックアップして紹介しましょう。

片山晋呉プロのトレーナーを務めた筑波大学の白木仁教授によると、ゴルフのスイングでは体幹筋が鍛えられ脂肪燃焼しやすくなるといいます。1日の平均歩数は、男性が約7000歩、女性が約6200歩といわれています。ゴルフでは18ホールで約13000歩とされています。白木教授は歩くことで運動不足が解消され、生活習慣病の予防につながるとのこと。また芝の上を歩くことで膝の負担も少なくケガもしにくいといいます。

諏訪東京理科大学・共通教育センターの篠原菊紀教授は、ゴルフは脳の働きの低下の予防や認知症予防につながるという。ゴルフは前頭葉を活性化できる最適なスポーツだそうです。脳の活動状況を測定したところ、1スイングだけで前頭葉が活性化され、カップインをイメージすることで前頭葉が活動していました。篠原教授直伝の予測能力・判断力が高まる脳トレを紹介しています。

スウェーデン・カロリンス研究所の発表によると、ゴルファーの死亡率がゴルフをしない人より死亡率が40%低いといいます。これは寿命が5年長いことに相当します。さらにゴルフがうまい人ほど長生きするといっています。ゴルフに隠された健康効果をこの番組ではたっぷり紹介されています。関心のある方は、ぜひご覧ください。

奈良柳生カントリークラブのメンバーでこの番組を視聴したい方には、DVDを貸し出ししますのでフロントにお申し付けください。

ゴルフは運動不足、健康維持に最適

最近のスマートフォンや 아이폰は何かと便利な機能が付いています。1日の歩行数やウォーキング、ランニングの距離や上がった階段まで表示してくれます。

ちなみに 아이폰を使って18ホールをプレーして歩数を見たところ、乗用カートはホール間の移動のみ乗車し、ほかは歩行してプレーしたら21000歩超でした。一方、プレー中も乗用カートに乗車してプレーしたところ、15000歩前後でした。

大体、歩行数15000歩だと消費カロリーはジョギングを2時間くらいした勘定だといわれています。乗用カートに乗ってプレーしても結構歩くのですが、フラットなホールや下りのホールなどではできるだけ歩くように心がけていただければさらに運動不足の解消になります。

このほかゴルフの効用では、生活習慣病の予防として内臓脂肪を減らしたり、体幹筋強化により血流が良くなったり脳の老化を防ぐなどの効果があります。何よりもゴルフをする人はしない人に比べ死亡率は40%低く、寿命は5年長いとの研究データがスウェーデンのカロリンスカ研究所が発表しています。ゴルフは60歳以上のシニアの健康維持には最適のスポーツなのでから週1回あるいは10日に1回くらいのペースでゴルフを楽しんでいただければと思います。

健康に関するブログ（2015年5月28日）「ゴルフは健康に良いは本当だった」も参照にしてください。

ルール違反は勇気をもって指摘しよう

ゴルフ場利用税が免税となる70歳以上のゴルファーが年々増加しています。以前、このブログでも書きましたが現役世代のゴルファーが増えず、70歳以上の高齢者ゴルファーの利用が年を追うごとに増えているためゴルフ場利用税の収入が年々減少していつてるそうです。

利用税の話は別にして、70歳以上の高齢者とゴルフをすると、時にご自分の打った打数が少なく申告されたり、罰打を付加するのを忘れていたりすることが多々あります。本人に悪気はなく単純に数え違いや勘違いが多いのですが、ゴルフにおいてこの過少申告はもっともやってはいけない行為であることは皆さん承知のはず。それだけに過少申告や罰打を申告しなかった場合、勇気をもって指摘すべきだと思います。

相手の過少申告や違反行為に気づいた場合、注意、指摘しなければ意外にこちらの平常心が乱れて自分のスコアにも影響してきます。それにその行為をした本人のためにもなりません。同伴者の違反行為を見て注意・指摘するのはあまりいい気持ちはしません。しかし多くのゴルファーは単純に打数の数え間違いであったり、ルールを知らなかったり、ペナルティの処置方法がわからなかったのだらうと思えば、優しく説明し間違いを指摘すれば本人も納得してもらえるはずです。

70歳以上の高齢者ゴルファーとご一緒すると、前もって「最近、歳をとって記憶力が衰えてスコアの数々を時々間違えるので、その時は間違ってるとはっきり指摘してくださいよ。」といわれる方がいます。ひと言、こう言っていただくと大叩きしたときなどは遠慮なく、互いにプレーを振り返りながら打数を確認して正確なスコアを記入することができます。笑顔を交わしながら、ルールに抵触する行為があれば優しく注意するように心がければ友好的で楽しいゴルフになるはずです。

ゴルフに対する偏見、負のイメージについて

2017年4月の消費税増税時に予定されている軽減税率制度をめぐり自民・公明両党の税制調査会で喧々諤々協議されています。時まさにゴルフ場利用税廃止を強く求めて行く時期なのですが……。

ゴルフ業界ではこのゴルフ場利用税の廃止問題とともに、もう一つ廃止しなければならない重要な問題があります。それは国家公務員倫理規定に明記されてる「利害関係者とのゴルフの禁止」という項目を削除してもらわなければなりません。

ゴルフは高額なプレー代や高い道具代などから贅沢な金持ちの遊びといわれ、接待ゴルフなどにも利用されてきた負のイメージが未だに残っています。

確かに過去には業者からの過剰な接待や癒着が社会問題化し、国家公務員倫理規定に「利害関係者とのゴルフの禁止」が明記された経緯があります。しかしながらゴルフのプレー代は、バブルがはじけてからは下がり続けバブル時の半額いや三分の一くらいまで下がり愛好するゴルファーも60歳以上のシニアや女性ゴルファーが圧倒的に増えました。

ゴルフは年齢を問わずできる生涯スポーツであり、国民スポーツとして定着してきました。来年のリオデジャネイロ五輪では正式種目として復活もした純然たるスポーツのはず。

にもかかわらずゴルフに対する偏見、負のイメージは解消されていません。こうしたことから超党派ゴルフ議員連盟（会長：麻生太郎財務大臣）ではゴルフに対する偏見や負のイメージを払拭するために国家公務員倫理規定から「ゴルフの禁止」の文言を削除するよう、11月18日に政府に申し入れたことが翌日の新聞各紙に取り上げられました。

ゴルフがスポーツとして大衆化され、国民的スポーツとして定着してきたとはいえ、関西のみならず日本各地には必ず歴史ある名門ゴルフクラブが固く門戸を閉ざし、平日でさえ3万円近いプレー代をとっています。えてして接待ゴルフで利用されるのがこうした高額名門ゴルフクラブなのです。

日本ゴルフ協会（JGA）、関西ゴルフ連盟（KGU）などの理事を務めている方が所属するのは、こうした名門ゴルフクラブのお歴々です。ゴルフが大衆化し、生涯スポーツであり国民的スポーツになったと声高に叫んでみても1%にも満たない高級高額名門ゴルフクラブが門戸を閉じてる限り、贅沢な遊びといった負のイメージは解消されないと思いま

す。ゴルフ場利用税の廃止、国家公務員倫理規定の「ゴルフ禁止」削除を推進するJGAやKGUの理事役員ではなんとも説得力がなく廃止撤廃も覚束ないのではないかと危惧するのは私一人ではありません。

スタート前の準備運動は欠かさないように。

ゴルフはれっきとしたスポーツです。ゴルフは激しく体を消耗させる運動ではなく、適度に体を動かす散歩のような運動だと思われてる方が多い。どんなスポーツでも始める前は準備運動やストレッチなど体調を十分整えてから始めます。

しかしゴルフの場合はゴルフというスポーツを甘くみているせいか、あるいは自分の体力や体調を過信しているせいか、準備運動や柔軟体操、ストレッチなどせずいきなりスターティングホールへ向かうゴルファーが圧倒的に多い。冬のゴルフはとくに体調などには気をつけてもらいたい。体が固いうえ、ふだんの運動不足からスイングした瞬間にぎっくり腰を再発させたり首の筋を傷めたりすることがあります。

またティーショットが曲がり、ボールを探しに法面を駆け上がる際に肉離れやアキレス腱を断裂したりしますし、心臓に負担がかかり心臓発作や心筋梗塞を発症したりして命をおとすこともあります。ゴルフプレーが原因の死亡事故はほかのスポーツに比べて桁違いに多いと医学データに出ているそうです。くれぐれもゴルフというスポーツを舐めてかからぬよう、スタート前の準備運動やストレッチなどを励行するようにしてください。

ゴルフは知的ゲームです

最近のゴルフはセルフプレーが多くなっているせいか、ゴルフというゲームの本来の面白さ醍醐味といったものがなくなっているように思われます。各ホールを攻略していくのに手のひらに収まるような距離測定器を利用されるゴルファーがひじょうに多くなっています。ティインググラウンドに立つとバンカーや池のハザードの位置や距離、グリーンまでの残り距離など懇切丁寧に表示してくれます。

ゴルフの面白さのひとつにグリーンまでの距離、グリーンの中のどの位置にピンが立てられているか、それに対して自分の目測と上り下りさらに吹く風が向かい風か追い風かなどキャディの助言を加味して自らの責任において決断しショットする。ゴルフゲームが知的ゲームだといわれる所以（ゆえん）はここにあります。

自らの判断ミスやミスショットは自らが責を負うものであって、けっしてキャディや同伴者のせいにはなりません。ゴルファーは自らの判断や行動に対しては清く自らが責任を負うところに、ゴルフは他のスポーツにない紳士のスポーツだと評価されているのです。

セルフプレーが多くなればなるほどゴルフ場側はコース内に残り表示の杭や植木の残り距離をホールのサイドに100ヤード、150ヤード、200ヤードなど必要最小限の表示以外に、カート道やスプリンクラーのヘッドなどにきめ細かく残り距離の表示板を数多く設置しています。

セルフプレーが圧倒的に多い大手ゴルフ場会社のゴルフ場ではティインググラウンドから230ヤード地点に吹流しのようなポールをフェアウェ어의中央に立てているし、グリーンの中のピン位置もグリーンの手前は赤旗、中央は白旗、グリーン奥は青旗というようにピン位置がどの位置にあるか判るようにしています。

いずれにしろゴルフは様々な諸条件を念頭に想像力を働かせて決断していく知的ゲームであり、そこにゴルフの面白さがあります。ひじょうに便利な科学的兵器？である距離測定器に頼らず自らの能力をフル稼働させ即断即決していくゴルフの醍醐味を再認識していただきたいと思う今日この頃です。

まず初心者は何を教えるか？

週刊ゴルフダイジェスト4月26日号に「初めてゴルファーに教えたいラウンドマナー」と題して先輩ゴルファーがコースデビューする初心者について気をつければ良いか、何を教えてあげれば良いかという特集記事が載っていました。

ゴルファーの高齢化とともにゴルフ人口の減少に危機感をもつゴルフ関係者としては、いかに新しいゴルファーを増やして行くかに智恵を絞っていかなければならないのに、ゴルフ団体はゴルフ振興の名の下にゴルファーから振興金を徴収し、既存のゴルファーを対象とした「チャリティフェスタ」だの「フレンドカップ」などと旧態依然、競技を開催し集めたカネをばら撒いています。

もっと20代、30代、40代の現役世代のビジネスマンにゴルフををする機会を与えるようなシステム作りを考えることこそが先決なのですが・・・・・・。
それはさておき、初心者ゴルファーに何を教えてあげるべきか？

ゴルフマナー研究の第一人者・鈴木康之氏は「ゴルフは心くぼりのスポーツだ」として他のプレーヤーへの心配り、コースに対するいたわりをを上げています。

高松志門プロは「初心者はまずプレーを急げ」といっています。100ヤードまでは打てば2、3本のクラブを持って走る。このほか「コースをいたわる」「グリーンをいたわる」と説いています。

なるほどと思ったのは、北野正之プロの「正規のルールでやる必要なし」ノータッチだからと無理にノータッチプレーする必要なし。打ち易いライに置いてよし、2回以上ミスしたらボールを拾って前進してもよし。バンカーから出なければワープしても構わない。

確かに初心者にとっては、ゴルフの楽しさを身をもって感じてもらうことが大事で、難しいライからのプレーで打てども打てども前進できないではゴルフは難しいだけで少しも面白くないと投げ出してしまいます。広々とした緑と青空の下でボールを打つ爽快感、緑の芝の上を闊歩する楽しさをまず体感してもらうことが大事だと思います。

スコアは二の次にしてゴルフがいかに健康的で楽しいスポーツであるかを実感してもらってから、ゴルフの上達へのイロハを教えると共に、ルールなど指導教育していくことが肝要だと思いました。

打ち込み厳禁、もし打ち込んだ時の謝罪は・・・

広大な敷地に18ホールがレイアウトされたゴルフ場ですが、どこからボールが飛んでくるか分かりません。早い話、いつ危険が襲ってくるか分かりません。隣りホールからボールが飛んできたり、あってはならないことですが後方からボールが飛んでくることもあります。打った本人はまず大きな声で「フォアー」と叫んでください。

隣や後ろから「フォアー」という声が聞こえたら、まずボールが飛んでくるかもしれないと両手で頭を覆い体を小さくして防御体勢をとるようにしてください。

後続組のプレーヤーが前の組に届きそうな距離の所から絶対に打ってはいけないのはゴルファーとしての常識であり当然の心得です。しかしながら正確にショットするプロやシングルゴルファーなら自分の飛距離を十分に把握しているので、前の組が飛距離外に出るまで待てますが、初心者やヘボゴルファーだと200ヤード以上あれば滅多にナイスショットはしないだろうと打ってしまいがちです。

このレベルのゴルファーだとミスショット9に対してナイスショット1の確率だから、待ちチョロが嫌でついつい待ちきれずに打ってしまうことがあります。得てしてこういう場合に10分の1の確率のナイスショットが出て打ち込んでしまうことになります。

もし打ち込みをした場合の謝罪は、即刻前の組に帽子をとり大きな声で謝るとともに、駆け足で前組のプレーヤーの元に行き、あらためてお詫びすることが必要です。大事なものは打ち込んだ時に帽子をとり謝り、許しを請うたので、それで終わったと思うのは間違いです。

次のティインググラウンドやコース売店やレストラン、ロッカー室などで前の組に追いついた時に正対して「○番ホールで打ち込んでしまい申し訳ありませんでした」ときちんと謝罪をし許しを請うことが大事なのです。

夏のゴルフは水分補給をこまめに

汗をかく量も多くなってきました。夏場のゴルフで注意が必要なのが脱水症と熱中症です。

ゴルフは過激な運動ではありませんが、乗用カートが普及したとはいえ、炎天下でプレーするため体温が上がり発熱量が多くなり大汗をかくこととなります。したがって水分補給をこまめに行わないと脱水症になってしまいます。

脱水症は血液量が減り血圧が急激に下がり脱力状態となり、意識は朦朧としフラフラし歩行困難になります。マラソン選手がフラフラになって今にも倒れそうになっているのをテレビで見たことがあるはず。あの状態が脱水症です。一方、熱中症は体温が上昇することにより発汗機能がおちて頭痛や吐き気、失神を起こすものです。

いずれも水分補給が重要ですが、単に水だけでなくナトリウムを含んだスポーツドリンクを用意してこまめに水分補給することが予防に効果があるそうです。

もっとも気をつけておきたいのは、前日の暴飲暴食、睡眠不足などの不摂生をして体調不良のまま、翌日のゴルフに挑むことは厳禁です。

ゴルフの基本は本人の直感

セルフプレーが多くなってきたせいか、距離測定器を持つゴルファーが増えてきました。ゴルフ場もセルフ対応のせいかグリーンまでの残りの距離を200ヤード（パー5ホール）、150ヤード、100ヤードの表示以外に50ヤード刻みに表示していたり、散水栓のフタに残り表示をこと細かく記載しているゴルフ場が多くなっています。

最近では乗用カートにコースナビを搭載しておりGPSでカートが動き出せば自動的に残り表示やグリーン上のピンの位置までの距離を即座に教えてくれます。ホントに便利になりました。

週刊ゴルフダイジェスト今週号（8月9日号）の奥田靖巳プロと海老原清治プロの対談記事で「やっぱり（ゴルフの）基本は本人の直感ですよ。パットのラインも残り距離も」（奥田）と。

これに対し海老原も「直感を大事にしたほうがゴルフは絶対に面白い。測定と計算ばかりじゃコースでプレーしているんじゃなくてヤーデージブックとプレーしているようになっちゃいますからね。」と応じています。

40年以上前のゴルフ場には残り表示を示す看板や杭ではなく、つげの木やさつきの木などの植木でコースの景観を乱さないようにさりげなく植えられていましたが、今はそういったゴルフ場が少なくなっていました。

短パンにハイソックス着用？

ゴルファーのファッションは基本、周りのゴルファーに不快感を与えないことが大前提です。夏のゴルフは蒸し暑く服装も乱れやすい。 Poloシャツの裾出しも、それ用の Poloシャツであればスマートで涼しげですが、 Poloシャツの裾がお尻まで隠れるような中入れ用を外出ししているのは見苦しく周りの人を不快にさせます。 Poloシャツの裾をすっきりパンツにインすればスマートでおしゃれなんですけどね。。。。。。。

夏のゴルフには短パンも涼しくて意外に最適かもしれません。しかしながら短パンにはハイソックス着用を義務付ける時代錯誤のゴルフクラブが多いようです。とくに開場50年以上の名門ゴルフクラブに。世界のゴルフクラブでも短パンにハイソックス着用を義務付けている所はほとんどありません。日本独自のおかしなゴルフ文化です。

英国のようなリンクスでショットしたボールが曲がってブッシュに打ち込んだりしたときに、短パンだとブッシュでケガをするので防護のためにハイソックスを着用すべしという説もありますが、本家本元の英国でハイソックスは義務付けてません。

また一説では、男のすね毛が見えるのは見苦しいというところからハイソックスを義務付けたともいわれていますが定かではありません。プロトーナメントでは選手の短パン着用はPGA、JGTO共認めてませんが、帯同キャディのほとんどは涼しく機能的な短パンを利用していますが、ハイソックス着用は義務付けてません。

夏のゴルフで短パンを利用しているゴルファーにハイソックスを義務付ける時代錯誤なゴルフファッションを求めるのは、もうやめるべきだと思うのですが。。。。。

言い訳ほど見苦しいものはありません

ゴルフは難しい。ビギナーはビギナーなりに、アベレージゴルファーはアベレージゴルファーなりに、さらにはシングルゴルファーはシングルなりに、うまく行かないことの方が多いのゴルフというスポーツです。

それぞれの技量で18ホールをプレーして納得のプレーはどのくらいあるのでしょうか？総じてうまく行かない方が多いと思います。うまく行かない原因は自分にあるのですが、ほとんどのゴルファーは自分を棚に上げてうまく行かなかった原因を他者・他所に押し付けてしまいます。いわゆる言い訳をしてしまいます。

今日一緒した同伴者が気にいらぬ、キャディが悪い。ナイスショットした球がディボット跡だったり、気の根っこだったり、はたまたスプリングクラーのヘッドに跳ねてラフに入った云々……。さらにはコースがトリッキーだの、グリーンスピードが遅いの早いのとコースをも槍玉に上げてしまいます。

自分のプレーがうまく行かない理由を他に押し付ける人が意外に多い。ゴルフというスポーツはプレーも含めてゴルフ場内での自分の行動に対する責は全て自分が負うのであって、決して他者や他所に求めるものではありません。

自分の無知、技量不足、練習不足、甘えなど自分に原因があることを棚に上げて言い訳することほど見苦しいものはありません。ゴルフは大体においてうまく行かないものと達観して、よしんば他者・他所に原因があつたとしてもそれを許す度量をもち大らかにゴルフを楽しんでいただければと思います。

golferとして当然のエチケット

すでに10数年前に鬼籍に入られたメンバーのI・Yさんは、お世辞にもゴルフは上手くなかったが、プレーの際は必ずスタート室横に置いてある目土袋を携行し、自分のショット跡以外に他人のディボット跡をせつせと埋めていってくれました。

日本のゴルフ場のほとんどは乗用カートを導入しています。あるゴルフ団体の調べによるとゴルフ場利用者の8割がセルフプレーになっているとのこと。キャディなしでのプレーですから乗用カートに目土袋が用意されていても、自分で作ったディボット跡に目土を埋めているgolferは皆無です。

年間5万人（ちなみに奈良柳生は3万1千人）以上の入場者のあるセルフプレー中心のゴルフ場は、フェアウェーのあちこちにディボット跡が残ってます。ディボット跡にボールが止まって舌打ちしているgolferの姿をよく見かけます。

セルフプレーが全盛の今日、自分で目土をする習慣を身につけるよう自戒を込めて申し上げたい。グリーンのパッチマーク同様、自分のショットしたことによりできるディボット跡は、後のプレーヤーのため（コースのためでもあります）自分で埋めるのがgolferとしての当然のエチケットですと。

ゴルフはマナー・エチケットが何よりも優先されます

前回のブログでディボット埋めについて書きましたが、最近のゴルファーは、ディボット埋めやバンカー均しをするのはキャディの務め「自分はお金を払ってプレーしているのだから、そういう作業はキャディやコースの作業員がするのが当然。われわれはお客様なのだから……」と平然という方がたまにおられます。

ゴルファーは、まずマナー・エチケットを何よりも優先されます。ゴルフ規則第1章エチケットでコース上での心得として「コースの保護」が明記されています。

「バンカーは、バンカーから出る前に自分が作ったバンカー内の穴や足跡は勿論、近くにある他のプレーヤーの作った穴や足跡もすべて入念に埋め、平らにならしておくべきである」と。また「ディボット跡やボールマークなど自分たちの作ったディボット跡（略）を入念に直しておくべきである。」ともゴルフ規則には書かれています。

ゴルフマナー評論家・鈴木康之氏は「ディボットとディボットマーク（跡）を放置していくな」にこう記しています。

後続のプレーヤーのナイスショットしたボールが、そのディボットマークに入ることもある。不運な後続のプレーヤーは不愉快ながら、そのまま打たなければならない。不運は天が人に与えるものである。人には別なゴルファーに不運を与える権利などはない。あなたが被害者になった場合の腹立たしさを想像しただけでも、なにをすべきかは明瞭である。

そういう想像が働かない人、想像を怠る人、たとえ想像してもリアリティを感じない人、こういう人たちにはゴルファーとしての資質が欠落している。（ピーターたちのゴルフマナーより）

利用税撤廃阻止より代替財源を要求すべし

ゴルフ場利用税は各市町村にとって使途が制限されない有難い財源であるだけに、各市町村が利用税撤廃阻止にやっきになるのは当然といえば当然です。

しかしながらこのゴルフ場利用税もゴルフ人口が増加傾向にあれば税収も上がり市町村も潤うのですが、ゴルフ人口が減少し、しかもゴルファーの多くが高齢者で70歳以上は免税となれば、毎年団塊の世代が免税ゴルファーになってくるわけですから税収は激減していきます。

ゴルフ場の延べ利用者は、ピークの1992年の1億200万人、利用税も1035億円あったのが、現在は利用者数も8600万人、利用税収入も478億円まで落ち込んでます。

利用者数で16%減、利用税は54%も減少しています。利用者数が16%減であるのに税収は54%減、これは70歳以上の免税ゴルファーの増加によるものだと思います。

すでに団塊の世代が70歳代に入り年々この世代が増加していきますから、税収が年々減少していくのが目に見えています。それだけに市町村連盟もいつまでもスポーツに課税するゴルフ場利用税の存続を陳情するよりも新たな代替財源を国に要求するよう、方向転換する時期にきていると思うのですが……。

ゴルフは生涯スポーツです

「高齢化が急速に進んでいるわが国にとっては、健康寿命を延ばすことは個人の生活の質の低下を防ぐと共に社会保障負担の軽減に繋がる。したがってゴルフは生涯スポーツとして健康増進、予防医療そして健康寿命の延伸に大きな役割を期待できる」と全日本ゴルフ振興会議が「ゴルフ場利用税廃止」を求める意見書に明記されていました。

ゴルフ場利用税廃止はともかく、この意見書にあるようにゴルフの効用はシニア世代が急増して行く現在、ゴルフは最適なスポーツといえます。健康に良いスポーツといえばジョギングや水泳、テニスなどを思い浮かべますが、高齢者にはあまりお勧めできません。なぜならジョギングにしろ水泳やテニスにしろ結構、過激な運動で汗をかき心臓や脈拍が早くなるなど体に相当の負担をかけ危険でもあります。

その点、ゴルフは歩くことが基本で、町のアスファルト舗装された道路を歩くのではなくコース全体に敷かれた美しい緑の芝の上を18ホール歩く（最近は乗用カートが導入されており歩行は少なくなったとはいえ、1万歩前後は歩いています）ことによって運動不足の解消となり、生活習慣病の予防にも繋がります。

ゴルフといえばボールを打つためにスイングします。このスイングをすることによって体幹筋を効率よく鍛えられる効果があるといえます。手に持ったクラブでスイングをすることにより体の姿勢を維持したり、手足を動かす軸の役割を果たすために重要なのが体幹筋だそうです。ここを強化すれば体全体の血流がよくなり新陳代謝もよくなり脂肪燃焼が行われやすくなるといわれています。

またスイングの動作を大まかに分解すると、構える姿勢、振り上げる姿勢、振り下ろす姿勢の3つに分けられます。スイングすることによって、体幹筋を構成するすべての筋肉（腹直筋・腹斜筋・脊柱起立筋）が鍛えられるそうです。つまりゴルフスイングは「筋のストレッチ」と「筋トレ」を同時に行う動作にあたり、体幹筋を強化する上ではこの上なく理にかなった動作だともいわれています。

ゴルフが生涯スポーツとして健康増進、予防医療、健康寿命の延伸に大きな役割を果たしており、高齢者には最適のスポーツであることを知っていただき70歳、80歳、90歳といつまでもゴルフを楽しんでいただきたいと思います。

ゴルフが上手い下手よりも人柄・人間性

ゴルファーにとって「あの人とならいつでも一緒にプレーしたい」といわれるゴルファーこそ、本物のゴルファーだと思います。ゴルフが上手い下手よりも人柄・人間性がゴルファーには求められます。

ゴルフはスポーツです。当然、他者とスコアを争う競技ですから一つでも良いスコアで回れば満足感、充実感を得られますが、逆にスコアが悪ければ落胆や喪失感を嫌というほど味あわせられます。それ故に人柄や人間性がプレー態度に大きく反映されてしまいます。

ゴルフにはプレーを通じて多くの人々と交流・親睦を図れる効用があります。そのためには、まず嫌われないゴルファーにならなければなりません。ゴルフを通じて気のおけない親しい人々を得るためにはどうすれば良いのだろうか？

答えは簡単明瞭、他人（ひと）に対する気遣いができるかどうかです。気遣い即ち相手のために思っている配慮すること。英語でいえばマナー・エチケットです。

マナー・エチケットに欠ける人はゴルフに限らず社会生活においても敬遠されます。最低限のルールや常識を守っておればみんなと楽しくゴルフを通じて交われるはずで

ご存知のようにゴルフには他のスポーツのように審判がいません。自分で自分を律するという誠に高貴なスポーツです。審判がないということをいいことに木の根っこやディボット跡に入ったボールを、人目を盗んでボールを動かしたりする人がいます。人に負けたくない、勝ちたいためについつい不正を働いてしまうといった自分を律しきれない哀れなゴルファーにならないように気をつけてください。

今年のゴルフの目標は？

今年の正月は穏やかな三が日が続き初詣や行楽客の人出で大賑わいです。ゴルフ場も好天に恵まれ多くのゴルファーが来場し初打ちゴルフを楽しまれています。多くのゴルファーが初打ちに際して、今年のゴルフの目標を胸にスタートして行きますが結果はどうでしょう。

一概に今年のゴルフの目標といっても、自己のもつベストスコアを更新することもあれば平均スコアを1つでも2つでも縮めることもあります。また、ハンディキャップを上げることや苦手のバンカーショットやアプローチ、パターの向上など技術的課題を克服することなど人によっては千差万別です。

目標達成には努力即ち練習が必要です。練習もしないで上達するほどゴルフは甘くありません。自己流でそこそこ人並みのゴルフはできてももう一段上を目指すにはプロのレッスンが必要です。それも単発的にプロレッスンを受けるのではなく信頼の高いプロと長期的にレッスンを受けることこそが上達の早道です。

今年は思い切って基本からしっかりプロに教わって正しいスイングを身につけ上達を図ってみてはいかがでしょうか。

今日も積雪クローズになりました

強い寒気の影響で予報通り昨夕からまた断続的に雪が降り、今日も一面銀世界。奈良県下のゴルフ場だけでなく滋賀県、京都府などのゴルフ場もほとんどが積雪クローズで近畿のゴルフ場も一部を除き壊滅状態です。

雪の写真を載せるのはゴルフ場にとって雪がこんなに多いゴルフ場なのかと思われるのが嫌であり載せたくないのですが、うちのゴルフ場だけでなく近畿全般のゴルフ場も同じ状況ですので・・・・。

2月1日号の「事務局だより」にも書きましたが、地球温暖化なら冬も暖かくなり雪の降るのも少ないのではないかと思うのですが、そうではないようです。地球温暖化の影響で太平洋などの海水温度が上がり海面から大気へ供給される水蒸気の量が増えて夏ならば豪雨、冬は北から寒気が下りてきて大雪になるそうです。

さらに詳しく説明しますと、北極の海に浮かぶ氷が地球温暖化の影響で融けて、冬のシベリアをさらに寒くさせ上空のジェット気流が日本上空に迫って大寒波となり大雪を降らすとモノの本に書かれていました。

今週は比較的エントリーも順調でしたが、今冬一番の大寒波が8日から襲い近畿地方全般大雪に見舞われました。とくに今日、明日の2日間はエントリーが多かっただけに残念です。いずれにしましてもゴルフ場にとっての2月の週末の積雪クローズは営業的にもダメージが大きく雪を見るとため息が出てしまいます。

女子プロツアー、いよいよ明日から開幕

いよいよ女子ゴルフツアーが明日2日「ダイキン・オーキッド・レディース」（沖縄・琉球GC）で開幕します。女子ツアー数は昨季より1試合増えて38試合、賞金総額も37億円超と5年連続増えて活況を呈しています。

昨季は37試合の内、イ・ボミ、申・ジエなど韓国選手が17勝、台湾のテレサ・ルーなど外国勢も含めると23勝と圧倒されています。2013年の森田理香子の賞金女王以来、外国勢に完全制覇されているだけに日本選手の奪還に期待したい。

日本女子プロ界を見渡すと20代の若手選手の台頭が著しい。昨季、待望の1億円を稼ぎ賞金ランキング3位に入った笠りつ子をはじめ同5位の鈴木愛、そして菊池絵理香、堀琴音、成田美寿々など安定感のある選手が外国勢に挑みます。さらに今季の目玉は日本女子オープンで史上最年少でしかもアマチュアで制した畑岡奈紗の活躍も見逃せません。主戦場は米ツアーとしてますが、スケジュールを調整して日本ツアーにも参戦するとのこと。開幕戦にも出場するだけに楽しみです。

一方、そうはさせじと2年連続賞金女王のイ・ボミは3年連続に照準を合わせ海外合宿など一段と総合力を高めています。申・ジエ、キム・ハヌル、全 美貞、李 知姫、アン・ソングジュなど外国選手が立ちはだかる。いよいよ熱い戦いがはじまります。

2019年施行のルール改正案

以前のブログに書いたがグリーン上のピッチマークの修復はOKだが、スパイクやゴルフシューズでできた傷や凹みなど芝の不整状態は直すことができないという現在のルールに疑問を呈しましたが、ようやくこの問題に終止符がうたれます。

2019年に施行されるゴルフルールの改正案が発表され、この中にグリーン上のスパイクやゴルフシューズによるマークや傷の凹みの修復は無罰で修復することができるようになります。

またグリーン上のパットの際、ピンフラッグを差したままパットしてボールがピンに当たるとペナルティでしたが、これも無罰でそのままプレー続行となるそうです。

このほか自分が打った球が自分やキャディに当たってしまった場合やボール探しの際に、誤って自分の球を蹴ってしまった場合など無罰に改正されます。今回の改正案は従来、あまりにも不合理だったルールを是正する意図があり、あっと驚くような大幅なルール改正になりそうです。

2019年施行のルール改正について

一昨日のブログで2019年施行のルール改正であつと驚くような改正案が発表されたことをお伝えしましたが、確かに驚くような改正案になっています。

バンカーやウォーターハザードなどではクラブのソールを砂や水につければペナルティでしたが、これが無罰になります。また、バンカー内ではアンプレヤブルしてもバンカー外に出すことができませんでしたが、2打罰とすればバンカー外からプレーができるようになります。さらにバンカー内の枯れ葉や石は無罰で取り除くこともできます。

救済を受ける際のドロップも従来は肩の高さからドロップしなければならなかったのですが、高さの規定はなく地面すれすれの高さでもOKとなります。球を捜すための時間は5分間でしたが、3分間に短縮されます。このほか距離測定器についてローカルルールで定められていない場合は使用可能などプレー時間を短縮するための合理的な改正になるようです。

ゴルフクラブは会員共有のコミュニティー

ゴルフは老若男女が同じステージでプレーを楽しめる数少ないスポーツです。老若男女だけでなく、ゴルフの上手い・下手も一緒にラウンドして楽しめる素晴らしいスポーツであることは、皆さんよくご存知だと思います。

しかしながらクラブ競技に参加される方の中で「この人と一緒なら嫌だ」とか「この人と一緒の組にしてください」などと我がままを言う方が多くなってきました。

クラブ競技は、そのクラブに所属するメンバーのみが参加できるものです。クラブ競技の目的は、メンバーの技術向上と共にゴルフを通じてメンバー同士の交流・親睦を図ることです。しかしながら「あの人と一緒にゴルフをするのは嫌だ」とか「あの方は上手過ぎて」や「下手すぎて」とかいろんな理由をつけて常に気の合う人とばかりプレーされる方がいます。

ゴルフ場は様々な人が集う社交場です。職業や身分や地位、さらには宗教や政治など人それぞれ違ってます。それらを超えて共通のゴルフを楽しもう、クラブライフを享受しようという人が集まっているのです。クラブ競技でキャンセルが出たりしてスタートの組み替えをお願いすることがありますが、頑なに拒否される方がおられます。

こうした方に、ゴルフマナー評論家・鈴木康之氏が書いている次の文を紹介します。「ゴルファーたるもの、プレーが楽しくスマートにできるのと同じように、ゴルフ場の中の人々との付き合いもまた楽しくスマートにできる社交能力をもっていなければならない。」と。ゴルフクラブというコミュニティーに所属するメンバーは社会人としての良識と人格と、それを表す行動力が求められるとも書かれています。クラブ競技でスタート室から組み替えを求められれば快く了承していただけるよう、お願いします。

ゴルフ場のクールビズ

5月に入り連日25度以上の夏日が続き暦の上では春ですが、もう夏季に入ってるようです。今月から9月末までクールビズシーズンに入りました。クールビズは2005年に節電を促す取り組みとしてエアコンによる冷房を室温28度に設定するよう指導、そのためノーネクタイなど軽装でも構わないとクールビズが始まりました。

クールビズが実施されて12年が経過してノーネクタイなどに違和感を感じなくなりましたが、冷房の28度が適正であるかどうかは分かりません。昨日の首相官邸で行われた副大臣会議で、クールビズの冷房28度設定が適正かどうか議論があったそうです。

ゴルフ場のクラブハウスの室温28度はとてもじゃないが無理です。28度設定にするとう「暑すぎる」「エアコン故障か？」などクレーム続出となります。せいぜい事務所などバックヤードのエアコンでクールビズ対応するだけです。

ゴルフ場でクールビズに対応できることといえば来場時のブレザー等上着着用義務が、上着なしでも可になるくらいでしょうか。夏になるとゴルフ場にとってはプレーヤーのプレーファッションで、短パンに対するハイソックス着用かショートソックスOKかの議論です。

何度もこのブログでも書いていますが短パンにハイソックスは日本独自の意味のないゴルフファッションルール？です。このファッションを強いるのは開場50年以上の伝統と格式のある名門クラブに多いようです。また新興名門？クラブを標榜している所もこのゴルフファッションを義務付けています。名門クラブに多い短パンとハイソックスを義務付けることで一応、自分たちのクラブも名門だと錯覚しているのでしょうか。

テレビニュースで安倍首相の連休中の休暇をゴルフで過ごされていた映像を何度もご覧になられたと思いますが、安倍首相のゴルフファッションは短パンにショートソックスでした。安倍首相といえばゴルフ場経営者の団体「日本ゴルフ場事業協会・NGK」（現名称・日本ゴルフ場経営者協会）の理事長を務められていたこともあるゴルフ通です。トランプ大統領にホンマのドライバーをお土産に贈るなどゴルフの造詣が深い方です。

この安倍首相が夏のゴルフファッションとして短パンにハイソックスではなくショートソックスでゴルフを楽しんでいる姿を見ると古いしきたりにしばられず合理性を優先されていることがよく分かります。意味のない短パンにハイソックスといった珍奇なゴルフスタイルはもうやめるべきだと思います。

打球事故に注意してください

ボールの打球事故には気をつけてください。ゴルフ場で「フォアー！」という声が聞こえたら、まず頭を抱えてしゃがむこと。

「フォアー！」の声は隣のホールや後方から飛んでくる危険球ですから打った本人はもちろん、キャディや同伴者も大きな声で「フォアー！」と発して飛んだ打球方向にいるゴルファーに注意を喚起する。これはゴルフをする者の初歩的なルール・エチケットです。ルールブックの第1章エチケットにちゃんと明記されています。

しかしながら「フォアー！」の声が聞こえたからといって咄嗟に声の方向は分からない。音もなく飛んでくるボールがどの方向からくるか正直分かりません。ただ、いえることは石のような硬いボールが直撃した場合、帽子を被っているのと無帽では負傷の度合いに大きな違いがあります。帽子着用を義務付けるのはこうした危険防止のひとつでもあるのです。

「フォアー！」の声を耳にしたらまず声が聞こえた方に背を向けて頭を抱えてしゃがみ込むことです。いきなり飛んできたボールを避けることは難しいですが、万一ボールが当たっても最小限の負傷・怪我で済みます。

遠くから飛んでくるボールは「フォアー！」の声とともに防御体勢をとれますが、意外に打球事故で多いのが同伴者同士で起こる打球事故です。同伴者が打つ前に自分のボール位置に行こうとして前に出てシャンクしたボールが直撃することがあります。至近距離の打球だけに顔面に当たると骨折で済まず陥没したり、目を直撃した場合などは失明という痛ましい事故も報告されています。

ボールは必ず前に飛ぶ訳ではありません。シャンクしたボールは直角までとはいませんが80度横の同伴者に直撃することもあります。ショットするプレーヤーの前には絶対に出ないようにすることと、同伴者がショットする際は必ず立ち止まってショットを見届けるようにしてください。

ゴルフ場では不意の危険がいつ襲ってくるか分かりません。加害者になることも被害者になることもあります。どちらにしても不幸な出来事です。こうした事故が起こらないよう万全の用心をして行動してください。

初心者には厳しいルールよりゴルフの楽しさを

日本独自のローカルルール「前進4打」。ゴルフの基本は常にあるがままの状態プレーするのが本来の在り方です。ティーショットをOBした場合は、当然打ち直しするのがゴルフです。

しかしながらゴルファーが減少していく状況下で、いかに新しいゴルファーを増やしていくかを考えると初心者にはゴルフがあまりにも難しすぎます。ゴルフ練習場に数回行ってコースデビューできるほど簡単なものではありません。クラブにボールを当てることから難しく、当たるようになってもチョロやら右や左に飛び真っ直ぐ飛ばすことは何十年とやってるゴルファーですらままならない。

初心者が100前後のスコアで回れるようになるには相当の暇（日数）とカネ（練習）が必要です。初心者がコースデビューしたら先輩ゴルファーはゴルフの精神を教え込みます。なかでもゴルフプレーの基本はノータッチでボールはあるがままの状態プレーすることを強調します。

ノータッチの精神は、競技などで自分に都合の良い「ズル」をしないということが大前提です。一定の技量をもつゴルファーがスコアのためにボールを自分の都合の良いように動かすことを戒めてるわけですが、初心者がコースデビューしたらノータッチ、あるがままになど難しい理屈をいわず打ち易いライにボールを置き直すことを認めてあげる、またバンカーショットも2回以上打っても脱出できなければ適当なペナルティ（2打？くらい）を付加してピックアップして打ち易い所からプレー続行させるなどの救済処置を設ければ良いと思います。もちろんギブアップもOK。

100以上のスコアを叩くビギナーには、ティーショットをOBした場合の打ち直しも相当のプレッシャーになるようです。ティーショットを何球も打ってOB連発では同伴者だけでなく後続組にも迷惑をかけていることが、当の本人が一番分かってるだけに気の毒です。こうしたときに前進4打のローカルルールが生きてきます。日本独自の悪しきローカルルールと決め付けず、こうした事情を考えれば前進4打も意味をもってきます。

ただこの前進4打も特設箇所（特設ティーとしている所もあります）からプレーイング4で打たなければならぬと強制するのではなく、打ち直しもOK、前進4打も可能という選択性の配慮がゴルフ場には欲しいと思います。ただ単にプレーの進行を早めるためにゴルフ場の都合だけの前進4打でなく、あくまでもプレーヤーに選択させるようにしたい

ですね。

初心者がOBの連発でボールをたくさん失くし、その上スコアはボロボロ、同伴者や後続組に冷ややかに見つめられてするゴルフ、面白いはずがありません。「高いカネを払ってのゴルフ、もう2度としない」といわさないためには、どのゴルフ場も前進4打の救済措置を設けることを検討する必要があると思います。もちろん競技にはこのようなローカルルールの適用は不可ですが。

初心者ゴルファーの指導は段階を経て

前回のブログ「初心者には厳しいルールよりゴルフの楽しさを」に対して「ゴルフを始めた初心者こそゴルフの持つ崇高な精神、ルール・マナー・エチケットなど厳しく教えなければいけないのではないか。先輩ゴルファーが厳しく指導しないからバンカーの跡を直さずに出たり、無神経にプレーヤーの後方線上に突っ立ったりする無知なゴルファーがはびこるのではないですか」というご意見をいただきました。

ゴルフマナー評論家・鈴木康之氏も自身の著書に「初級者も悪法に甘えるな」と書いてます。ごもっともです。しかしながらよく考えていただきたい。ゴルフ初心者には厳しいゴルフのルールを教え実践させるのは、幼稚園児にいきなり小学生や中学生の算数や国語・英語・数学を教えるようなものではないでしょうか。まず絵本や遊戯などから学ぶことの楽しさを覚えさせ小・中・高・大と段階を経て学んでいく教育システムこそ初心者ゴルファーの指導にも当てはまると思うのですが。

ゴルフもまずボールを確実に打てるようになって、広いゴルフ場に出て緑の芝の上を歩く爽快感、たまに出るナイスショットや10メートル以上の長いパットがカップインしたときの快感・感激など初心者でも味わえるゴルフの楽しさ・面白さを実際に体験してこそ、ゴルフの奥深さにはまり込み虜となっていくのではないのでしょうか。これこそが新しいゴルファーを増やしていくことにつながるのではないかと思います。

団塊シニアに依存するゴルフ業界

わが国の人口減少と高齢化は産業界のみならずゴルフ業界においても深刻な問題となっています。レジャー白書によると1992年のわが国のゴルフ人口は1480万人だったのが2016年には550万人と半減どころか3分の1近くに激減しています。ゴルフ場利用者数も1992年には1億人だったのが2016年には8631万人と減少しています。

ゴルフ人口が3分の1近く激減したのにゴルフ場利用者数は△14%にとどまっています。これは団塊の世代を中心とした高齢者ゴルファーの年間プレー回数が大幅に増えたことによります。さらに増えた大きな要因にセルフプレーによる低料金化があります。1992年頃の平日のプレー料金は1万5千円～2万円が当たり前でしたが、この数年の平日のプレー料金は昼食付きセルフプレーで4千円代から1万円。キャディ付きでも1万2千円～1万8千円というところでしょうか。

年金生活者のシニアゴルファーにとって、コースやサービスの良し悪しは二の次、グレードの高いゴルフ場で1万5千円以上払うなら1回5千円のゴルフ場で3回プレーする方が良いというのがこうした数字の実態ではないかと思えます。

なりふり構わずコストカットして究極の安値といわれる5千円前後のプレー料金を打ち出す大手チェーンゴルフ場に追随するゴルフ場も高齢者ゴルファーの年間プレー回数増加を後押ししているようです。

団塊シニアに依存するゴルフ業界もここ4、5年で75歳を迎え順次クラブを置き始めることになるとゴルフ市場は大幅に縮小され、ゴルフ場の存続の危機が確実にやってきます。この団塊シニアが元気なうちにゴルフ人口の減少に歯止めをかけるべく、有効な対策をゴルフ業界挙げて積極的に取組んで行かなければなりません。

ゴルフを始めるきっかけ作りや30代～50代の働き盛りのビジネスマンへのゴルフ誘引施策などゴルフ界全体が一つとなって市場活性化をして行く必要があると思うのですが、他人事のように傍観している経営者が多く、また業界・団体も一枚岩になって物事に当たろうという機運に乏しいのが残念です。

「握り」はプレーのいい刺激剤

ゴルフでは賭けのことを「ベット」とか「握り」といってます。ゴルフの握り（ベット）は常識の範囲でやるならプレーにはいい刺激になると思います。しかしながら法治国家であるわが国ではいかなる賭け事も許されません。しかし警察もわれわれ庶民ゴルファーのわずかな賭けまで取り締まるほど野暮ではありません。

ゴルフの賭けのことを「チョコを握りませんか？」というように、昔のゴルファーたちはささやかに1枚50円、100円程度のチョコレートを賭けてゴルフをしていました。40年以上前のゴルフ場のプロショップには当時1枚50円～100円程度の板チョコが実際に販売されていました。

慎ましい「握り」（賭け）で勝者はチョコレートを土産として家に持って帰り、家族にゴルフで勝った自慢話と共にチョコレートを戦利品として差し出したものです。

貴族のスポーツ、紳士のスポーツといわれていた戦前のゴルフも戦後の経済成長と共にゴルフがビジネスに利用されるようになってゴルフが俗化してしまいました。

成金ゴルファーが増えるにつれゴルフの「握り」も100円が千円、1万円、10万円と恐ろしく高額なレートの賭けが行われるようになって行きました。バブリーな時代には50万円、100万円単位の金のやり取りがあったとか、朝乗ってきたベンツを賭けたりとかの常軌を逸した勝負をしていた嘘のような本当の話があります。バブルがはじけた現在、こんな馬鹿げた賭けゴルフはお目にかかれませんが。

ゴルフにおける「握り」はプレーのいい刺激剤になります。それだけに常識の範囲内で楽しんでいただきたいと思います。反面、賭けゴルフをすると勝負にこだわって自分のゴルフができないから嫌だというゴルファーも多い。やたら「握り」たがるゴルファーもいますが、無理強いをせずケースバイケースで相手をみてするようにお願いします。

偉大なゴルファー赤星六郎の名言

週刊ゴルフダイジェスト今週号（10月10日号）をペラペラと見ていたら、戦前の名ゴルファー赤星四郎・六郎兄弟の弟・六郎の名言が紹介されていました。赤星兄弟といえば戦前の名ゴルファーであり、技術論、クラブの設計、ゴルフ場の設計など日本のゴルフ界の黎明期に大きな足跡を残しました。とくに赤星六郎はアメリカにゴルフ留学するなど戦前のゴルフ界に先進のゴルフを持ち帰り伝播した偉大なゴルファーでした。

この赤星六郎の言葉が「米国からの土産」と題してイラスト4頁にわたって紹介されています。

「コースからスコアだけを持ち帰る者とは友人になれない」

「誠実な人に対してゴルフは多くの友情をお土産に持たせてくれるものだ」

なかなか含蓄のある言葉です。さらに

「試合ではナイスショットをたくさん打つより ミスショットを少なく打つ方が勝つのだ」

これらの言葉の説明は不要ですね。個々人がこの言葉をどのように受け止めてどうプレーや行動に表していくか言葉の意味をしっかりと頭に刻み込んでください。

秋が深まってきました

10月に入り秋が深まってきました。朝晩はずいぶん肌寒く感じるようになってきましたが、日中はまだまだ日差しが強く体調管理はなかなか難しいようです。朝晩と日中の気温の差に対応できず風邪を引いてる方が結構います。気をつけてください。

10月第一日曜日は関西ゴルフ連盟加盟クラブではクラブ選手権とシニア選手権の予選が一斉に行われてます。当クラブもクラブ選手権には6組21人、シニア選手権も6組23人が参加して予選の真っ最中です。

親しい支配人から電話があり、情報交換の後、クラブ選手権の話になりましたが、そのクラブのクラブ選手権の予選には3組と少なく、また競技志向の強い奈良県下のゴルフクラブも予選に3組しか参加されないとのこと。予選も16名取りでなく8名を予選通過者として準々決勝からマッチプレーとするところが最近、多くなってきたといえます。

マッチプレーになると他のプレーヤーのラウンド中にマッチプレーヤーが追いつくとパスをさせなければなりません、これがなかなかすんなりパスしてもらえないことがあり、トラブルになることがあります。

パスさせる方はプレーのリズムが崩されることもあり、1組ならいざしらず1回戦などは何組もパスさせるため、プレーが完全に中断されてしまうわけですからいわずもがなのひと言をこれみよがしに発してしまう方がいます。

一方マッチプレーヤーからすると、クラブを代表する大競技のマッチプレーなのだからパスさせてもらって当然という気持ちがあります。

この微妙な気持ちのズレがちょっとしたトラブルに発展してしまうことになります。パスの際にはパスさせる方も、される方も「お先にどうぞ」とか「頑張ってください」と声をかけてあげる。他方パスされる方も「お先に、ありがとう」の声とともに会釈を返すようにすればお互い気持ちよくプレーできるのですが・・・・・・・・。

トランプ大統領のゴルフ外交

米国トランプ大統領が来日し安倍首相と松山英樹プロを伴って2020年東京五輪のゴルフ会場となる霞ヶ関カンツリー倶楽部東コースでラウンドされました。

トランプ大統領は無類のゴルフ好きでハンディキャップも3(?)だとか。もともと不動産の大富豪でゴルフ場の経営も10指で数えられないほど保有しています。同氏はビジネスでも「真に付き合う人物かどうか判断するには一緒にゴルフをすればその人物の性格や考え方がおおよそ判る」とゴルフ接待やゴルフ外交がいかに有効であるかを説いています。

確かにゴルフと一緒に18ホール回れば同伴者の一挙手一投足で、その人物の性格や考え方がよく判ります。相手や周りの人に迷惑をかけたたり不愉快な言動や行動をせず謙虚、気遣いをする紳士で上辺だけでない信頼に足る人物かどうか。また、そのプレーが「公正」「正直」か。さらにトラブルに見舞われた時の対処法が「挑戦」「勇気」「計画性」といった的確な判断力をもっているかなどラウンドすればその人の人物像がみえてきます。

ビジネスにゴルフを活用するトランプ大統領のゴルフ観、私も同感です。

ゴルフ外交は倫理規定に抵触はしない？

米国トランプ大統領が来日し安倍首相と強固な日米同盟を礎とする外交基盤を固めました。トランプ大統領と安倍首相は国内屈指の名門コース・霞ヶ関カンツリー倶楽部でゴルフを通じてより厚い信頼関係を築いたようです。

二人の信頼関係をより強固にしたものにゴルフ外交があります。ゴルフプレーをしながらお互いリラックスしていろいろ難しい話題も本音で話し合えたこととゴルフ外交の成果を話されていました。

ところで日本の国家公務員の倫理規定には「利害関係者とのゴルフの禁止」という項目が明記されており国家公務員の付き合いゴルフは禁じられています。今回の安倍首相が国賓並のトランプ大統領をゴルフで「おもてなし」をしたことは、この倫理規定に抵触しないのだろうか？

さらに今回の霞ヶ関CCでのプレー代、松山英樹選手の招聘の費用とギャラ等々は誰が支払ったのでしょうか。たぶん日本政府が一切合財支払ったと思いますが、果たして倫理規定にゴルフ禁止が明記されてるのに違法支出にならないのでしょうかね。

ゴルフはプレーヤー同士、プレーを通じてリラックスしながら本音を語り合える素晴らしいスポーツであることが証明された訳ですから、この機会をとらえて日本ゴルフ協会など業界団体は国家公務員の倫理規定に明記されている「ゴルフ禁止」の項目を削除するよう要求すべきだと思います。

ジコチュー（自己中）ゴルファー増殖中

ゴルフのマナーとルールは世界共通です。たとえ言葉が通じなくとも紳士的な振舞い、ラウンド中のマナーを守っていれば海外では恥をかかずにゴルフは楽しめます。

ゴルフの腕前はお世辞にも上手とはいえませんが、他のプレーヤーやキャディに対する気遣いなどされる素晴らしいゴルファーはいます。

同伴者がアドレスに入ればお喋りはやめる、後方線上に立たない等々の気配りはゴルファーならごく当たり前のことですが、これがなかなか守れない。とくに最近ゴルフを始めた若い人に多いようです。

そういえば昔（今の団塊の世代が30歳前後でゴルフを始めた頃）は、ビジネスマンにとってゴルフは必須アイテムとして上司からゴルフの手ほどきをみんな受けたものです。

ゴルフ場のクラブハウスに入るときはブレザー着用。プレーするときのウェアは襟付きのポロシャツを着用するようになどと口うるさく注意されたものです。

プレーについても「君らのようなビギナーは真っ直ぐ飛ばないのだから打ったら、必ずクラブ2、3本持ってボールの所へ走って行くように！」とか「バンカーショットの跡や靴跡は後のプレーヤーのために必ずバンカーレーキで均して出るように」などなどゴルファーとしての初歩的なルール・マナーを厳しく指導されたものです。

最近はゴルフの手ほどきをする先輩や上司がいなくなりました。そのため「自分さえ良ければ」という自己中心のプレーヤーが増殖しています。ルール・マナーを知らないビギナーが自分勝手な行動をしたときは、先輩ゴルファーとしてしっかり注意・指導するように心がけたいと思いますが、皆さんもお目付け役としてなぜマナーを守らなければならないのかなどを指導してやってください。

認知症予防・老化防止のためにもゴルフを

今日は上空に強い寒気が流れ込み日本海側や東北・北海道では昨日同様、雪が吹雪くとい
います。ゴルファーにとっては嫌な季節の到来ですが、ゴルフというスポーツは春夏秋冬
それぞれの季節を感じながら自然の中で楽しめるスポーツです。

高齢者ゴルファーの中には寒い冬はキャディバッグを封印し冬眠すると冗談気味に話す
方がおられますが、もってのほか健康のためにも定期的にゴルフを楽しんでいただきた
いと思います。すでに科学的に証明されてるいるようにゴルフは認知症予防や老化予防に最
適なスポーツです。

認知症予防に良いとされるのは距離の計算や風の読み、クラブの選択、コースの攻め方
など、その都度考えながらプレーすることが脳の血流を良くし神経細胞の代謝を良くする
ことで認知症の予防になるそうです。

またゴルフは長時間長い距離を歩くことが足腰を強くするのはいうまでもなく骨や筋肉、
関節などの衰えを防いでくれ老化防止につながります。

今週の週刊ゴルフダイジェスト（12月19日号）では、ゴルフで5歳若返る！という
特集記事が載ってます。「健康を守る最善策は多忙でもゴルフの予定をキャンセルしないこ
とです」と医師が明言されてます。「人生100歳時代、健康寿命を延ばすのがゴルフだ」
とも。ぜひ一読し冬のゴルフに立ち向かってください。

今年もキャディのFさんが4番ホールと16番ホールにクリスマスツリーを飾りつけて
くれました。

ゴルフには感性が大事です

週刊ゴルフダイジェスト（12月26日号）の連載で海老原清治と奥田靖己の「もう一花のゴルフ」で常日頃からゴルフには感性が大事だといっています。

最近のゴルフ場はグリーンまでの距離を懇切丁寧に表示していますし、何よりも正確な距離測定器が販売されています。キャディ不足とプレー代の低料金化によりセルフプレーが全盛の現在、距離測定器はゴルファー必携のアイテムかもしれません。

男子のシニアプロツアーでは距離測定器の使用はOKとなっています。しかし海老原・奥田両ベテランプロいわく「ゴルフには感性が大事」だと。現在のプロツアーはエッジからピンまでの距離やどこにバンカーなどのハザードが配置されており、グリーンของ速さや固さまで事前にわかるようになってます。しかもホール攻略のヤーデージブックまで用意されています。

1970年頃までは100ヤード、150ヤードの目印に植木はあったが、誰も距離など測っていない時代、みんな自分の感覚だけで打っていたという。グリーン面の固さだったりグリーンの色だったり、そういうゴルフ場の景色とかいろいろなものから何かを感じ取ってプレーしていたのだから、単にボールを打つ技術だけでなく感性を大事にすることこそが本来のゴルフの楽しみ方であると両プロは言っています。

技術だけでなく感覚・感性を養うゴルフをしてみたいだろうか。

イエス・キリストの降誕を祝うクリスマス（12月25日）が近づいています。街にはジングルベルのBGMが流れています。ことしも会員のU・Sさん手作りのサンタクロースがフロントに並び皆様をお迎えしています。

回りたくない人になってませんか？

今日発売の週刊ゴルフダイジェスト（3月6日号）を読んでいたら「回りたくない人になってませんか？またご一緒にのゴルファーになろう！」というなかなか面白い特集が目に付きました。

アマチュアゴルファー100人に調査して「こんな人とはもう回りたくない」という人を4分類しています。「プレーが遅い人」「感情を表に出す人」「おしゃべりな人」「マナーが悪い人」の4分類に分けて、それぞれの具体的なコメントが記載されてます。

<プレーが遅い人>では「自分の打順がきているのに打つクラブに迷って、なかなかアドレスにはいられないとか、カートから離れたラフにボールを打ち込んでいるのにクラブを持たずに歩いて行ってボールを見つけてからクラブを取りに来る人」

<感情を表に表す人>では「黙り込む、道具に当たる、キャディに当たる・・・・・・段階を踏んで嫌な感じになっていくのが最悪のパターンな人」

<おしゃべりな人>では「技術面の話になると急に雄弁になり、上から目線の話し方になる人」「聞いてもいないことをあれやこれやいう人」

<マナーが悪い人>では「キャディへの対応には人格が出る。ラインが違ったといっで、お前そう言ったじゃないか、みたいな感じの人」

などなど具体例が数多く記載されています。

そして「好かれるゴルファー10箇条」として前述の残念なゴルファーを反面教師にして真似したい素敵ゴルファーの例がまとめられています。

深夜から降り続く無情の雨に思う

東大寺二月堂の修二会（お水取り）も昨日終わり、いよいよ春本番と思いきや深夜からずっと降り続く無情の雨。キャンセル続出です。

ゴルフに悪天候はつきもの「自然の中で行うゴルフは悪天候を嫌ってはいけない」とはゴルフマナー研究家の鈴木康之氏の弁。鈴木氏の著書から以下抜粋。

ゴルフは自然をグラウンドにして行うゲーム。この場合の自然とは、地の自然と天の自然を意味する。地の自然に急傾斜や谷や池があるように、天の自然には雨、風、霧がある。全てが挑戦に値するハザードである。悪天候を嫌い、悪天候から逃げたがる心は、わがまま、弱虫の心である。強い雨、強風、濃い霧はゴルファーにとってももちろん快適なものではない。しかしなんら不向きなものではない。

悪天候を悪いスコアやミスショットの言い訳にしてはならない。悪条件はみんなも同じ。悪条件なのだから、うまくいかなくても恥じることはない。その中でもこれだけのゴルフができたと喜ぶべきだ。

と、書いているものの最近のゴルファーは高齢者が多いこともあり「健康のためにゴルフをしているのに、雨の中で無理してラウンドして風邪を引いたりしたらいい笑い者になる」とあっさりキャンセルされてしまいます。

以前のようなゴルフブームの時代には、忙しいビジネスマンがスケジュールをやり繰りしてようやくエントリーが取れ、その日を逃すと次のチャンスは当分ないというような状況ならば雨でも仕方がないとプレーしたものです。しかし昨今のゴルファーの多くが現役を引退したシニアゴルファーですから暇はたっぷりあり、エントリーを受けるゴルフ場もいつでもOK状態だけに悪天候なら即キャンセルが現実です。仕方ないですね。

KGUの公式競技でもセルフプレー化に

ゴルフ場の人手不足は深刻です。ゴルフ場に限らず飲食業やコンビニエンスストアなどのサービス業全般にいえますが、学生アルバイトや主婦のパートなどの応募がなく24時間営業を廃止するところも少なくありません。

ゴルフ場もキャディのなり手がなく慢性的なキャディ不足でセルフプレーが常態化してきてます。関西ゴルフ連盟主催の公式競技の予選などはセルフプレーで行うようになってきました。キャディの派遣会社に派遣を依頼しても希望の人数どころか1人も派遣できない状況だといわれています。

各ゴルフ場もキャディ不足でクラブ競技でも完全セルフ化の傾向にあり、日清都CC、タラオCCといった有名ゴルフ場も早くからクラブ競技の全面セルフ化を取り入れてるそうです。

日本のゴルフ場の75%くらいはセルフプレーを導入しており、今後もセルフプレー化は増加していくのは間違いのないところです。当クラブでもキャディの求人募集や学生アルバイトの募集など八方手を尽くしてますが、応募はほとんどなく4月からクラブ競技でもやむ得ず一部セルフ化を取り入れてます。求人の応募があっても50代の中老年男性が問合せしてくるくらいでホントに頭の痛い問題です。

都心から離れた山間部に位置するゴルフ場は通勤に1時間近くかかることもありパート・アルバイトにとっては敬遠される理由のひとつでもあります。近い将来、キャディという職業は消えていくのではないかと思います。どうしてもキャディが必要だというゴルフ場は、プロのようにキャディを帯同していくことになるかもしれません。

一流は一流を知る

「一流は一流を知る」とかいいます。週刊パーゴルフの今週号（5月8・15日号）を読んでいたところ、米ツアーで初優勝した小平智の「本誌だけが見ていた！小平智ポーカークフェースの裏側」という特集記事にフィル・ミケルソンとのマッチプレーで戦った時に大きな収穫を得たことが書いてます。

記事によると二つの収穫を得たといいます。そのひとつは、小平は、ミケルソンの素振りを見て自分との違いを明確に感じたそう。米ツアーはグリーン周りが難しく小平も苦戦していたが、ミケルソンからヒントを得たといいます。

「ミケルソンの素振りに意思があるんです。こういう球を打ちますよという感じでクラブを振ると空想のボールが見えました。またあの辺に落としてという漠然としたものではなく、ボールとカップが線で結ばれているように寄っていくんです。自分もカップインするように線で結んでイメージをしっかりと出したら寄るようになりました」と。

凡人ゴルファーの多くはアドレス前の素振りは単なるルーティンとしてクラブを振っているだけではないだろうか？なるほど小平がいうように素振りこそ明確な意思をもって、どう打つかを集中して行うことが大事だということが判りました。ゆめゆめショット前の素振りを軽んじないよう、肝に銘じてください。詳しくは週刊パーゴルフをご覧ください。

ゴルフには変わらぬ伝統的精神がある

わが国のゴルフは昭和30年代の経済成長と共に発展してきました。法人マナーを頼みにスポーツ競技というより遊興ゴルフを楽しむことを目的に発展してきた経緯があります。

本来ゴルフは紳士淑女の礼儀作法を根底としたゴルフマナーが最も重視されるスポーツであることは、ご承知のことと思います。しかしながらゴルフが大衆化されると共に、ゴルフを楽しむ振舞いや装いなど時代と共に多様化してきました。

ただ時代の変遷と共に多様化する価値観であっても変わらぬ伝統的精神があります。それはまさに他のプレーヤーへの配慮や思いやり、そしてゴルフコースをいたわり大事にする努め、さらにはゴルフ場に職業や地位を持ち込まない平等の精神です。

ゴルフは下手でもいい、楽しめます。だけどマナーやルールを知らないとゴルフができなくなります。人のプレーを妨げたり、人を不愉快にさせる言動や行動をする無作法者は人に嫌われ、善なるゴルファーは近寄らず、さらにはゴルフ仲間も去って行きます。

ゴルフの何よりの効用は身分や地位、さらには老若男女などの違いを超えてゴルフを楽しみ通じ合えることにあります。言い換えれば、ゴルフを通じてゴルフ友だちを増やし交友関係を広げて行ける素晴らしいスポーツです。この機会にご自身のゴルフスタイルを振り返ってみてはどうだろう。

体調を整えてゴルフをしてください

スポーツといえば体力の限りを尽くす激しい運動競技を想像するが、ゴルフはさほど過激な運動を必要としません。むしろ散歩に毛が生えたような運動だと思っている人が多い。

ゴルフを甘く見てラウンド前夜の深酒や夜更かししてプレーする人もいます。さらにはスタート前にビールを飲んだり、ラウンド中に飲酒するゴルファーも結構多いようです。

意外と思われるが、スポーツの最中に不幸にして死亡する人は、ゴルフは他のスポーツに比べてケタ違いに多いのをご存知だろうか？

ゴルフが散歩程度の運動という認識だから二日酔いの体で、あるいは徹夜明けの体調不良のままコースに出向きラウンド中にアクシデントが起こる。血圧が異常に高い状態や動悸がおかしいといった場合は、ショットやパットする前の緊張感から脳や心臓発作を起こして倒れ込み救急車に担ぎこまれることになりかねない。

ゴルフ前夜の不摂生や無茶する人に限って自分を過信したり、また逆にそれを誇らしげに同伴者に吹聴する人がいます。ゴルフは案外、危険なスポーツであることを認識してしっかり体調を整えてプレーするようにしてください。

昼食の注文の品が違っていたら

先月、某ゴルフ場でプレーする機会がありました。ハーフを終えてレストランで昼食です。メニューを広げて何を食するか思案した結果、「海鮮あんかけ焼きそば」を注文しました。そして運ばれてきた品は「海鮮丼」です。うん？「私の頼んだのは海鮮あんかけ焼きそばだけど」というとチョットお待ちくださいと厨房に。そして伝票を手に「やはり海鮮丼と書いてますが」と注文を受けた側の正当性を主張します。

たぶん注文を受けたウェイトレスが「海鮮あんかけ焼きそば」を「海鮮丼」と同じ頭に「海鮮」とついているため、「海鮮丼」と聞き間違えたのだらう。私は「海鮮丼でなく海鮮あんかけ焼きそばを注文したのだから取替えよ」などと言い張るほどのことでもない。「いいよ海鮮丼で」と仕方なく食べました。同伴者の1人が「やさしいね。俺なら注文を間違えて違った品を持ってきたら絶対に替えさせるよ。ガミガミ文句はいわないけど。」という。

こうした昼食の注文の聞き間違いによるトラブルはよくある話です。今回、私が経験したケースをゴルフ仲間10人に「君ならどうする？」とヒアリングしたところ人の性格にもよりますが、7人は間違えた品を「いいよ、それで」と注文の品と違ったものを食べるといいます。理由は様々ですが大人の対応をされています。

一方、3人は「食べたい品を注文したのだから替えさせるのは当然」と筋を通されます。ただ、今回のヒアリングの中にはいませんでしたが、クレーマーという方が必ず存在します。「おいっ、君、俺はこんなもの注文していないよ。注文をちゃんと聞かないと駄目だろう。すぐ取り替えよ」というのは正論であり、至極当たり前クレーマーではありません。

クレーマーは注文の品と取替えさせ、さらに「新しい品をすぐ持ってこい、マネージャーを呼べ」の挙句に「ここの教育はどうなってるんだ！」とやたらテンションが上がり激昂する方です。マネージャーに「ああや、こうや・・・」と過去の対応の悪さや料理のことや値段のことやら注文の品の取り違い以外に延々とクレームする方が必ずおられます。

もちろん注文を受けて間違えた方が悪いに決まっています。ちゃんとするべきだと思いますし、怒るのも無理はないと思います。さらにいえばレストランの従業員教育にも問題があるのは言うまでもありません。ただ、他人に迷惑をかけない、不愉快にさせないゴルフ場のレストランでそのような光景を目にさせられるのは周囲の者にとって不愉快極まりない迷惑な話です。相手が間違いを詫び、注文の品を取り替えてくれればそれでいいのではないかと思うのですが、いかがでしょう。

夏に向かい暑さ対策が必要です

昨日（6月5日）、中国地方で「梅雨入り宣言」が出ました。近畿地方も今日くらいに発表されそうです。昨夜から降る雨が降り続きキャンセルが続出、頭が痛いです。これから梅雨入りし雨が続く日々を想像すると気が滅入ってしまいます。

しかしながら梅雨の時期だからといって晴れの日がないわけではありませんし、確率的には雨より降らない日の方が多いのですからゴルフは存分に楽しめます。天気予報に注意してゴルフプランをお立てください。

これから夏に向かい暑さ対策が必要になってきます。太陽がまぶしい夏空の下でのゴルフはまず直射日光を避ける工夫をしてください。体で露出している顔や首筋、腕などにはUVカットの日焼け止めクリームを必ず塗るようにしましょう。近年は、日焼けした肌は皮膚がんが発症しやすくなるため、男女を問わずUVカットのクリームを塗ることが必須といわれています。

ゴルフは長時間、太陽の下で過ごすため直射日光を避ける工夫が必要です。そのひとつにUVカット布素材の日傘が必携アイテムとなっています。この日傘を差していると意外ですが直射日光を遮るため、木陰のように涼しく感じるのでぜひゴルフ用日傘を携行することをお勧めします。

夏のゴルフは健康的な汗がたっぷりかけます。それだけに汗を拭うタオルも必須アイテムです。できれば大き目のタオルがいいでしょう。ハンカチ程度のフェースタオルでは、ないよりはマシ程度で間に合いません。よくゴルフ場の手洗所に設置しているフェースタオルを持ち出す不届きゴルファーがいますが、マナー・エチケット違反ですから絶対にしないでください。

また汗をかくと脱水症状にもなりますので、スポーツ飲料などで頻繁に水分を補給するようにしてください。そして何よりも一番大事なことは、ゴルフ前夜の深酒や寝不足を避けることです。

日本一距離の長いコースで熱戦が展開

～全英への道～ミズノオープン日本一距離の長いコース「ザ・ロイヤルGC」で開催されました。テレビ観戦をされた方も多く見応えがありましたね。ザ・ロイヤルGCは全長8007ヤード、16番ロングホールは705ヤードとアマチュアゴルファーには手に負えない世界基準のトーナメントコースです。

トーナメントは秋吉翔太が唯一、通算1アンダーパーで優勝しましたがモンスターコースに相応しい難コースであることをまざまざ見せつけられました。全長8007ヤードのコース設定でしたが、そのまま使用したのは3日目だけで残り3日間はティーグラウンドを前に出し7700ヤード前後で行われたそうです。

ただ名物ロングの16番ホールだけは4日間とも705ヤードで行われました。テレビで見ましたが、日本のトーナメントプロがドライバーでフルショットして第2打も直（じか）ドラでも誰一人2オンしませんでした。風の影響もありますが、ドライバー、ドライバーと打って第3打もウッドを手にしたプロもいました。まさにモンスターホールでした。

藤田寛之プロがこのザ・ロイヤルGCは「コースレイアウトやハザードの位置、グリーンのアレンジーションなど上手くレイアウトされており、ボールをちゃんとコントロールしないと攻略できない、いいデザインのコース」だと絶賛しています。

トーナメントプロが競うコースとしては世界基準の超一流であっても、ふだん利用するアマチュアゴルファーにとっては果たして面白いのだろうか？という疑問が残りました。

世はシニアゴルファーが年々増えてきており、70歳・80歳の高齢者ゴルファーのために全長4800ヤードくらいに短縮するピンクティー（コースによってはパープルティーとかブラックティーなど呼び方は違いますが）設置が増えてきてる昨今、プロトーナメントはより距離を長く難しくし、一方アマチュアの高齢者ゴルファーには距離を短くしてパーを取り易くするという一見、矛盾するようですが、プロを対象としたコースセッティングと高齢者ゴルファーを対象としたコースセッティングでは目的や意味が違うということです。

プロは難攻不落のコースに果敢に挑戦して行くエキサイティングなゴルフを一方、高齢者ゴルファーには体力や技量に応じた距離設定をしいつまでもパープレーに挑戦して行くゴルフ本来の楽しさといつまでも健康でゴルフを続けていただくという狙いがあります。

ゴルフ振興策について

ゴルファーの減少が下げ止まらない。ゴルフ業界では若い世代のゴルファーの発掘・育成強化を目的にゴルフ振興策に取り組んでいるものの、旧来のゴルファーのゴルフ回数を増やすだけのゴルフ企画に終始し、新しいゴルファーの創出などほとんど実現していません。

関西ゴルフ連盟（KGU）が旗振りしているゴルフ振興など振興金を集めるだけで、有効に活用されているとは思えません。

KGU理事・監事クラブは近畿各府県の名門クラブといわれているクラブの理事長が選ばれています。こうしたお歴々が新しいゴルファーの創出のためのゴルフ振興策を唱えても実効性あるものが企画されると思えません。

逆にこうした名門クラブこそがゴルフ振興を阻んでいることに気付いていません。名門クラブでプレーしたいと思っても一般エントリーは断られ、エントリーの門戸は固く閉ざされてますし、なんらかの伝手（つて）でエントリーできてもプレー代は平日でも2万円を超すといった状況で、気軽にゴルフが楽しめるでしょうか？ましてや若年層や現役サラリーマンの小遣いでゴルフに行けるだろうか？

ゴルフは今も昔もお金に余裕のある人しか楽しめないスポーツ（遊び）なのです。ゴルフマナー評論家の鈴木康之氏はある書物でこう書いてます。

「ゴルフは否応なしに金がかかる。ゴルフを楽しめる人は経済的にかなりゆとりのある人である。・・・・・・・・・・ゴルファーの誰もが、ゴルフを楽しむ機会をもっと何度も持ちたいはずだが、それができないのは、体力や時間がないわけではなく、経済的な事情が理由のはずである。家族と楽しみたい、仲間や後輩もゴルフに誘い込みたいのだが、それがしにくいのは、金銭的なことが足を引っ張るからである。

ジュニアにゴルフを楽しませてあげたい。そうしないと裾野が広がらない。しかし、今日のゴルフの高コストでは、やはり一部の親の子どもにしかチャンスは与えられない。

ゴルフを楽しむ機会をもっと増やすために、私たちがすべきことは質素志向のゴルフである。ゴルフプレー以外のサービスのために料金の高くなってるコースを避け、よりリーズナブルな料金設定に努めているコースを選択するようにし、そういうコースが栄えるように仕向けること。飛距離をニュークラブに求めたがる心をもっとスイングの改造に向け

ること。一度決めたクラブをもっと長く愛すること。」

と鈴木康之氏は書いてます。ゴルフが大衆化しプレー代もバブルの時代からみればかなり安くなりました。とはいえゴルフを楽しめる人はまだまだ経済的に余裕のある人だと思えます。こうした問題にどう取組んでいくかを本音で議論して行かなければ真のゴルフ振興策など生まれてこないと思います。

ゴルフクラブの性能向上について

ラグビーの全国大学選手権決勝が昨日、東京・秩父宮ラグビー場で行われ、天理大学が初優勝を目指して明治大学と対戦しました。常勝・帝京大学のV10を阻止し決勝進出しただけに、奈良県民をはじめ関西のラグビーファンも同志社大学以来の関西の大学の優勝に期待し天理大学に声援を送りましたが、惜しくも22-17で関東の壁を崩せなかったのは残念でした。

話はかわりますがゴルフクラブの性能は年々向上していますね。よく飛びそして曲がらないといった究極のテーマにメーカーは開発・改良にしのぎを削ってます。スウィートスポットを少々外してもミスショットにならず、そこそこ飛ぶように進化してきました。アマチュアゴルファーはクラブの進化でどれだけ技量をカバーしてもらっているか。

去年の古い週刊ゴルフダイジェストを捲っていると藤田寛之プロのコラム「藤田寛之の結論 ゴルフは理屈じゃない」で面白いことを書いてます。

「私（藤田）はドライバーでドローやフェード、高低などゴルフ場のホールの形状（レイアウト）や風など状況によって球筋を打ち分ける。あえて飛距離を落として方向性を重視して握ることもありました。パーシモン（ヘッド）とか小ぶりのヘッドの時代を経験してきたこともあり、自分でヘッドを操作して球筋をつくってきた」といいます。

現在のクラブは曲がらずより遠くへ飛ばすクラブが主流となっており、藤田プロいわく「ミスショットしても曲がり幅が小さくなり、それでいて飛ぶ」という。

それほどクラブの進化は著しいのですが、プロにとっては、それが問題だといってます。ミスショットしても曲がらずに飛ぶことがなぜ問題なのでしょう。

藤田プロはいいます。「プロはホールの形状によってボールを曲げてコントロールする技術をもっていますが、最近の進化したクラブではその技術がボールに伝わらず、思い通りの球筋のボールが打てない」ということらしい。

なるほどそういえばアマチュアゴルファーに大人気で最も売れているクラブ「XXIO」を使用しているツアープロはほとんど目にしません。プロの高度なテクニックとはクラブの性能より自分の確かな技術によってスコアメイクしているのだということを知られました。

立証されているゴルフは健康に良い

いよいよ春のゴルフシーズンの到来です。新聞にも梅だよりが載りはじめました。寒い冬を敬遠されていたシニアやレディースの方も、今冬は暖冬のせいか立春を過ぎたところから元気なお姿を拝見する機会が増えてきました。

ゴルフというスポーツは他のスポーツのように過激に体を動かす必要はなく、散歩のペースでプレーして行けるところがシニアに適したスポーツだといわれる所以です。乗用カートに乗りながらのラウンドでも1万歩以上歩きますので運動不足は解消されます。

何よりもゴルフは1打1打のショットや各ホール、各グリーンなどの攻略法を都度考え行動して行く知的スポーツだけに、脳の働きを活性化させ認知症予防になると科学的に実証されています。ミスショットすれば次はどうカバーして行くか、攻めるか謝りレイアップして次のショットに賭けるかなど自分自身のなかで様々な駆け引きをしています。このことが前頭葉を活性化させるそうです。生活習慣病の予防や認知症予防にゴルフは最適です。寒い冬を敬遠して封印していた方もそろそろキャディバッグを取り出してゴルフ場へ足を向けてはいかがでしょう。

もっと気軽に短時間でゴルフが楽しめないものか

新しくゴルフを始めようという人が相変わらずあまり増えません。金と暇がかかることが敬遠される一番の理由のようです。金の問題はさて置き、暇＝時間がかかりすぎるといのは忙しい現代人にとっては最も嫌われる要素かもしれません。

ゴルフ場への行き帰りに2時間、ラウンド時間はハーフ2時間～2時間半。18ホール回ってほぼ5時間、家を出てゴルフして帰ってくるまで7～8時間かかってしまうとなればほぼ休日の1日がつぶれてしまいます。

もっと気軽に短時間でゴルフを楽しめないものか。18ホールの1ラウンド料金制から9ホールのハーフ単位の料金制を取り入れる所も出てきたとの話も聞きます。

ハーフプレーなら料金も安く時間も半日あればこと足りるわけです。午前中ハーフプレーしてから仕事に、あるいは逆に午前中は仕事をして午後から軽くハーフプレーといった具合に忙しい現代人にとってはピッタリかもしれません。

ゴルフが18ホールの1ラウンドを基準としているため、休日がゴルフで1日丸つぶれとなり家族サービスも疎かになってしまいます。

団塊世代以前のモーレツ社員なら家庭を放っておいてゴルフも仕事のうちとゴルフに興じていましたが、現在の家庭中心の団塊二世、三世には通用しません。家族ともども短時間で料金的にも安上がりで楽しめるハーフプレーシステムを業界として考えていく必要性があるかもしれません。

浅地洋祐選手、初優勝おめでとう

昨日のアジアパシフィック・ダイヤモンドカップ（千葉県・総武CC）で浅地洋祐選手がマンデートーナメントから出場してプロ初優勝を果たしました。

浅地といえば石川遼と同じ東京・杉並学院高校で石川の2学年後輩。石川が華々しく高校生プロとして注目をあつめていた頃、浅地も高校2年生の時にこのダイヤモンドカップに出場し9位に入る逸材として期待されていました。

私もこの浅地をよく覚えているのは、奈良柳生カントリークラブで行っていた日本ゴルフツアー機構（JGTO）の2011年QT1stにアマチュアで出場していたからです。

この時の記録を見ると浅地は72、68、66、10アンダーの206でトップに2打差の3位で1stを楽々通過していました。ちなみにこの時のQT1stには出水田大二郎もアマチュアで出場しており、71、76、70の217の成績で19位でした。

気のおけないゴルフ仲間を増やそう

仕事をリタイアして料金が安い平日に好きなゴルフを存分に楽しむぞ！と思ってる定年退職直前のシニアゴルファーは多い。

ところがいざリタイアして「さあゴルフを」と思っても誘える相手がいないことに気づく。現役だった頃は、部下や後輩に半ば強引に付き合わせていたが、リタイアしてしまうと現役世代にそう声をかけて誘えないと否応なしに気づかされます。

ゴルフは個人競技ではありますが、4人1組か3人1組でプレーするのが基本だけに仕事からみのゴルフ仲間とはきれいさっぱり縁を切り新しい同好（ゴルフ）の士を見つけることが肝要です。

そのためにはゴルファーとしての技量よりも相手を不愉快にさせないマナー・エチケットを持ち合わせた人間性豊かな真のゴルファーであることが求められます。

ゴルフクラブに所属する会員であれば気軽に一人で来場してメンバー枠などに入れてもらってゴルフをするチャンスはありますが、気のおけない真のゴルフ友達となれるかどうかは問題です。

プレー後に同伴のゴルファーとは「二度と一緒にプレーしたくない人」か「またご一緒させてくださいね」といえる人か、あるいは相手から見てあなたは「二度と一緒にプレーしたくない人」の烙印をおされてるかもしれません。

週刊ゴルフダイジェスト6月4日号で「またご一緒したい人ランキング」が出ていました。

①楽しくできる・明るい・前向きな人 ②プレーや決断が早い ③上手い・プレーが参考になる ④マナーが良い ⑤周りを気遣える ⑥スコアだけに執着しない ⑦適度に的確に教えてくれる ⑧リズムよくプレーできる ⑨一生懸命プレーする ⑩うるさく騒がない ⑪調子悪くても黙々とプレーする・ズルしない・人柄が良い

逆に「二度とご一緒したくない人のランキング」は

①プレーが遅い ②感情をあらわにする ③マナーが悪い ④うるさい・おしゃべり ⑤教え魔 ⑥自分しか考えず周りをみない ⑦キャディたちへの態度が悪い ⑦自分のスコア、スイング自慢 ⑨細かすぎる・神経質 ⑨スコアばかり気にする ⑩疑い深い・セ

コイ・品がない・服装などがだらしない・ズルをする

このアンケートをよくご覧いただき、少なくとも「二度とお誘いのないゴルファーにならない」よう気をつけていただきたいと思います。ゴルフはプレースタイルを見るとその人の人柄や人間性が見事に表れるスポーツです。アンケートを熟読し「またお誘いいただけるゴルファーに」なるように心がければ、しがらみのないゴルフ仲間が自然と増えて行くはずです。

試合観戦もゴルファーらしく品格をもって

男子、女子に限らずツアーをテレビ観戦することが多い。レイアウトやコースのセッティングなどの勉強のためにテレビを見ていますが、鼻眞の選手が優勝争いをしていると肩に力が入ってしまいます。

今年の女子ツアーは黄金世代と言われてる選手が活躍し次々と初勝利を手にしています。イ・ボミやキム・ハヌルといった韓国の強豪選手が調子をおとしていることもあり日本人選手の活躍が目立ちます。

先週に行われた「ヨネックスレディース」最終日、上田桃子とキム・ヒョージュが優勝争いしていた時、キム・ヒョージュがダブルボギーを叩いた時にギャラリーから「ありがとう！」の声が聞こえたそうです。

心無い声援に近くのギャラリーは一瞬凍り付いたそうです。いくら日本人選手に勝たせたいという思いが強くて、相手のミスを揶揄したり、手を叩いたりするのはマナー違反ですし、周りの良識あるゴルファーにすれば何とも恥ずかしい行為だと眉をしかめたと思います。

こうした鼻眞の引き倒しといえ、過去に岡本綾子が米国ツアー賞金王になるなど活躍していた時に、「マツダジャパンクラシック」で岡本とジャン・スティーブソンが優勝争いしていた14番ホールで、スティーブソンがボギーを叩くとギャラリーから「ナイスボギー」と声をとんだ。この声に対戦中の岡本が「何でそんな応援をするのか」と涙を流しながら猛抗議。さらに岡本は試合後に「私もアメリカで何度も優勝争いをしているアメリカ人からすれば外人ですが、アメリカの人は私に勝たすなというようなヤジはありませんし、むしろ激励の声援をフェアに送ってくれます。」というエピソードを思い出しました。

心無いヤジや声援が名勝負を一瞬にして白けさせます。ギャラリーはゴルファーらしく品性・品格をもって素晴らしいプレーに拍手や声援を送り試合を盛り上げてほしいと思います。

環境汚染の元凶プラスチックごみ

世界の首脳が一堂に会したG20大阪サミットの開催期間中は、阪神高速や大阪市内の幹線道路が大幅規制されるなど市民生活に大きな影響がありましたが、無事閉幕され何よりでした。

G20大阪サミットではプラスチックごみによる環境汚染が取り上げられ、2050年までに使い捨てプラスチックなどによる新たな汚染ゼロを目指す「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」が共有されました。

スーパーマーケットやコンビニでもビニール袋の有料化などプラスチックごみの減少・廃止に取り組みつづけています。確かにスーパーやコンビニに限らずビニール袋などプラスチック製品は社会に溢れています。簡便で便利しかも使い捨てができることから大量消費され、環境汚染の元凶になっています。

ゴルフ場でも風呂の脱衣場に置かれている着替えた下着などをいれるビニール袋、スコア記入用の鉛筆、ボールマーカー、歯ブラシ、髭剃りなど常備しており、いずれも使い捨てで素材はプラスチック製品です。

果たしてゴルフ場でこれらを常備する必要があるのかなと疑問に思います。ゴルフ場の過剰サービスではないかと自省しています。昼食後の歯磨きを励行される方ならマイ歯ブラシを持参すればいいことだし、髭剃りなどは朝の洗顔時に髭を剃ってくるわけで、入浴時に髭剃りは不要だと思います。

風呂の脱衣場に置いている洗濯用ビニール袋も環境破壊の最たる物だと思います。手軽なランドリー用バッグを各人が持参すればこと足りると思います。

ボールマーカーも多くのゴルファーがキャップに付けるマーカーをお持ちだし、コイン型のマーカーをほとんどの方がポケットに入れている現状からすれば、従来のゴルフ場のロゴマークが入ったプラスチック製のボールマーカーは不要だと考えます。

厄介なのがスコアを記入する、カードに挟めるプラスチック製エンピツです。これこそまさに18ホールのプレーを終えればお役御免でポイ捨てしてしまいます。使用後返却してもらってもエンピツの先が丸くなって再利用するのは、次のお客様に対して失礼になるため消却処分せざるを得ません。スコア記入用のお洒落でスマートなマイペンシルを誰か

考案してくれないかなといつも思っています。

ゴルフが金持ちのスポーツから大衆化しシニアに最適な国民的スポーツになった現在、至れり尽くせりの過剰サービスを排してコスト削減をはかり低料金化に反映させ、しかも環境問題に積極的に取り組んで行くことが必要だと常々考えてますが、この考え、間違ってるでしょうか。

ゴルフが楽しくなるカジュアルティー設置

ゴルフ場にはバックティーやレギュラーティー以外にフロントティーやシニア向けのゴールドティーや女性向けのレディースティーを設置していますが、75歳を超す高齢者ゴルファーから「もう距離が出なくなりゴールドティーやレディースティーからでも無理です。そろそろゴルフも手仕舞いする時がきた」と嘆いておられる高齢者ゴルファーの声をよく聞きます。高齢者には最適のスポーツといわれるゴルフを、体が動く限りいつまでも続けていただきたいと思っているのはゴルフ場関係者全員の思いです。

そのせいか各ゴルフ場ではいつまでもゴルフを楽しんでいただこうとレディースティーよりさらに前にティーイングエリアを設ける所が増えてきました。「プラチナティー」とか「ピンクティー」とか呼び名はゴルフ場により違いますが、高齢者ゴルファーにいつまでもゴルフを楽しんでいただくことを目的としています。

距離はおおよそ4500ヤード前後が多く、高齢者ゴルファー以外にゴルフを始められたビギナーの入門コースとしての利用などゴルフ振興策の一環でこうしたカジュアルティーが増えてくると思います。

当クラブでも一昨日の12日にカジュアルティーを設置、開設しました。アウト2173ヤード、イン2240ヤード、全長4413ヤードです。名称はカジュアルティーとし、ティーマークの色は、ピンク、プラチナなど検討した結果、グリーンに決めました。

カジュアルティーは高齢者ゴルファーに限らずビギナーからグランドシニアまで幅広く気軽に楽しんでいただくためにカジュアルティーと称することにしました。各ホールの一デーは下のスコアカードの通りです。

ミドルホールで250ヤード前後ですからドライバーショットが150ヤードしか飛ばない方でもパーオン可能となりゴルフの面白さが再認識、再確認できます。アベレージゴルファーでもこのティーを利用すれば第2打がショートアイアン、ロングホールも2オンできイーグルに挑戦できるなどプロ気分が味わえる楽しさがあります。

ただしこのカジュアルティーはコースレーティングがとれませんので、クラブ競技には使用できませんし、プレー後のスコアカード提出してもハンディキャプ査定に反映されませんのでご注意ください。

クラブ14本は多すぎませんか？

クラブ14本多すぎませんか？プロ・アマ問わず道具に頼らずもっと技（わざ）という
かテクニックを磨いてスコアメイクして行くゴルフの原点回帰が必要だと思えます。

曲がらずより遠くへ・・・ゴルフ道具の進化は止まるところをしらない。プレーヤーの
所持するクラブの本数は14本までとなってますが、果たして18ホールをプレーするの
に14本も必要なのだろうかといつも疑問に思ってます。あるに越したことはありません
が、あまりにも現在のゴルフは技よりも道具に頼りすぎているのではないのでしょうか？

日本経済新聞の7月21日の特集記事「ヒッコリーゴルフ原風景を愉しむ」を読んでい
てゴルフも昔の原点に戻らなければいけないと痛感しました。

記事によると1920年代ごろまではヒッコリーの木製シャフトやアイアン、パターな
ど6・7本を細身のキャディバッグに入れプレーヤー自身が肩に担いでプレーしていたと
いう。いわゆるセルフプレーです。現在のように14本のクラブを大きなキャディバッグ
に入れると15キロ以上、プレーヤー自身が担いでプレーするには大変であり、キャディ
に担がせることに。（現在はカートに載せキャディが世話していますが。）

人手不足の昨今、キャディ確保が困難になってきている折、ヒッコリーの時代のように
クラブの本数も7本くらいに制限してセルフプレーに原点回帰すべき時だと思えます。

日経新聞の特集にはヒッコリーのクラブで名門・鳴尾ゴルフ倶楽部でプレーする様子が
紹介されていました。「ハンチング帽にニッカボッカ姿でプレー。ショットを終えると小ぶ
りなキャディバッグを肩に担いで歩き出す。電動カートまでクラブを取りに行く手間もな
く、テンポよく進む。芝生や木立の中で自然のままプレーする姿がゴルフの原風景を感じ
させた」とある。

近代ゴルフは用具の進化と共に発展してきました。プロですら道具（クラブ・ボール）
に頼っており、アプローチウェッジなど50度から60度まで1度刻みに用意されている
し、ウッドとアイアンの中間のハイブリッドクラブなど次々開発されています。

プロであれば1本のウェッジで開いたりかぶせたりしてあらゆるアプローチショットを
見せてもらいたいものです。これこそが道具に頼らないプロの技だというようなテクニッ
クこそがゴルフの面白さだと思うのですが。

より遠くに飛ばすためのクラブやボールの進化で全長7000ヤードのゴルフ場がもはや長いと言えなくなってきました。500ヤード超のミドルホール、600ヤード超のロングホールなど全長8000ヤードのゴルフ場でないとチャンピオンコースと言えなくなってきました。

狭い国土の日本でゴルフ場の拡張や超ロングのゴルフ場を新設することは、もはや不可能だけにクラブやボールを逆に抑えるとかクラブの本数を7本程度に抑えるとかしてゴルフの原点である牧歌的ゴルフに戻ることを考える時期ではないでしょうか。

ゴルフ振興策を考える

ゴルフ業界はゴルファーの減少と共に入場者の減少傾向にどう歯止めをかけるかが喫緊の課題です。しかしながらゴルフ団体の主導するゴルフ振興策といえば、現状のゴルファーとくに時間の余裕のある年金受給者のシニアゴルファーをターゲットにした平日の安売り企画で、プレー回数を増やす小手先の企画でお茶を濁しているのが現実です。

もっと長期的な視野に立った新しいゴルファーを発掘する魅力あるゴルフ振興策に取り組まなければなりません。建前が優先するゴルフ場業界では実効ある振興策はなかなか実現できません。ゴルフ振興基金と称してゴルファーから30円を徴収している関西ゴルフ連盟も「チャリティゴルフフェスタ」「フレンドカップ」「ペアスクランブル」といった競技企画をしていますがほとんどが平日開催。参加者の多くはリタイヤしたシニアゴルファーです。

現役世代にもっとゴルフできる機会や環境を与えることを真剣に考えなくてはならないのに、土曜・日曜・祝日のエントリーは難しく料金も高い。さらに平日のエントリーでも名門コースは固く門戸を閉ざしており、20代、30代の現役世代がゴルフしたくてもそう簡単にゴルフができる状況にありません。

現在のゴルフ人口の7割は65歳以上のシニア層が占めています。60歳以下の現役世代がゴルフ人口の核にならないとゴルフの将来性はないといっても過言ではありません。

奈良県ゴルフ協会がこの夏、県下ゴルフ場に現役世代が参加できる土曜日を一部開放して「サタデーチャレンジゴルフ」を呼び掛けました。賛同した一部のゴルフ場で実施したところ、平日に開催する協会の県民ゴルフ参加者の9割が65歳以上なのに対して、逆に7割以上が59歳以下の現役世代の参加者で大変好評だったといえます。

当クラブでも7月27日（土）に協会後援の「サタデーチャレンジゴルフ」を開催したところ、35組を超す応募があり31組121名の方が参加されました。当日はあいにくの悪天候にもかかわらず2組キャンセルがあっただけでした。いかにこの現役世代が休日に安くゴルフができる機会を求めているかがよく分かります。

会員制ゴルフ場にとっては、そう易々と安く休日開放することは難しいと思いますが、1組か2組を全ゴルフ場が現役世代に開放すれば違った意味での盛り上がりがあると思いますし、新しい現役世代のゴルファーの発掘にもなると思います。いかがでしょう。

ゴルフ場利用税廃止の声を

2020年東京五輪・パラリンピックの開幕まで1年を切り、五輪に関連する番組を目にしない日がないほどです。2016年のリオネジャネイロ五輪で五輪競技に復帰したゴルフは、来年の東京五輪では霞ヶ関カンツリー倶楽部で行われます。すでに世界的な名設計家トム・ファジオの手によりコース改造も完了したといえます。

米国に次ぐゴルフ大国・日本といわれますが、プレー人口の減少に歯止めがかからない状況にあります。ゴルフ人口減少の一因にゴルフというスポーツの負のイメージがあります。即ち金がかかり過ぎて金持ちの遊びや法人の接待に利用されてきた「緑のお茶屋」といった過去のマイナスイメージが今に至っても消えないことにあります。

このため今もゴルファーには担税力があるとの理由でプレーごとにゴルフ場利用税（800円～1200円）が消費税とは別に二重課税されてます。

このゴルフ場利用税は消費税が導入される前までは「娯楽施設利用税」といってパチンコ、麻雀、ボウリング、ビリヤードなどの利用に対し地方税として徴収されていました。消費税が導入された1989年にこの「娯楽施設利用税」が廃止になったものの、ゴルフだけが「ゴルフ場利用税」と名を変えて今日まで徴収され続けているのです。

スポーツに税金を課す日本の悪しき税制、しかも消費税との二重課税などゴルファーが増えず減少一途の一因でもあります。

日本経済新聞（9月13日スポーツ面）の国際ゴルフ連盟のピーター・ドーソン会長のインタビューで同会長は「今のゴルフはれっきとしたスポーツであり、年齢やレベルの違う人たちがともに楽しめる生涯スポーツである。五輪競技となった今でも、他の競技と平等に扱われていないのは残念だ」と日本のゴルファーに課すゴルフ場利用税を批判しています。

9月3日～6日までの期間、当クラブで一般社団法人・日本ゴルフツアー機構のQT2ndを行いました。海外プロ選手20名を含めて112名が参加して行われました。これに先立ち、ゴルフ場利用税の免税もしくは軽減措置を奈良県中南和県税事務所に申請しましたが、「業務利用は、利用者が利用料金を一切払わない場合に限られる」と一蹴されました。

Q Tに出場するために海外を含め北は北海道から九州まで日本各地から奈良へ来て1週間、滞在しプレー代だけでなく滞在費など奈良県下に相当のお金をおとしていってるわけです。こうした現状を考えれば、プロ競技であるQ Tは当然免税にして当然と思いますが、いかがでしょう。

ゴルファーは誠実で正直でなければならない

朝晩ようやく涼しい風を感じるようになったとはいえ、10月に入っても連日30度を超す気温が続いています。ゴルファーの服装を見てもまだ短パンに半袖シャツの夏ファッションの方がおられます。

今日10月第1週の日曜日は、KGU傘下のゴルフクラブはクラブチャンピオンとシニアチャンピオンを決めるクラブ選手権とシニア選手権の予選が一斉におこなわれています。

競技委員とスタートに立ち会い、ゴルフ談義で「わざと誤球を打たせるような同伴者がいる」などと面白おかしく経験談を交えたゴルフ談義を聞いてました。

ゴルフというスポーツは審判員のいないプレーヤー自身がジャッジしスコアを自己申告する正直を前提として競技が成り立ってます。ゴルフマナー評論家の鈴木康之氏はこう書いてます。

「ゴルフは誕生以来永々とプレーヤーの正直を前提にして存続してきた。ゆえにゴルフは偉大なゲームであり、偉大な文化である。この偉大な歴史に、そして自分のゴルフ史に一点たりとも虚偽の汚点を残してはならない。」と。

ボールを林に打ち込み自分しかいないことをいいことに、OB杭のわずか10センチ外のボールを内に入れたり、木の根っこに止まったボールを足で動かしたりという悪魔の囁きに負ける方がいます。

競技ではないし、親しい仲間同士のプライベートゴルフだから少々ボールを動かしてもいいだろうと自分だけの勝手な理屈でプレーする人がいます。

しかしいくらプライベートゴルフだからとはいえ、安易にボールに触れたり動かしたりは厳に慎むべきです。この業界に長くいると関西でも名の通ったシングルプレーヤーが「あの男は玉子を産むから要注意」といったレッテルを貼られた人が意外と多くいることに驚かされます。

広大な敷地にレイアウトされたゴルフ場の林の中に入れば人目につきませんが、隣のホールから見えたり、コースの作業員が周辺にいたり意外に人に見られることが多く、悪いことはできません。同伴者の目をごまかせてもこうした目撃者の目を覆い隠すことはで

きませんし口をふさぐこともできません。不正を働く要注意人物の烙印を押されたら終わりです。肝に銘じてください。

マナーにはその人の人格が表れる

「打ち方にはその人の体力が表れる。ルール上のジャッジメントにはその人の知力が表れる。そしてマナーにはその人の人格が表れる。」これはゴルフマナー評論家・鈴木康之氏の言葉です。

先月行われた女子ツアーの「マスターズ女子レディース」で笠りつ子が風呂の脱衣場でストレッチする際に、バスタオルが常備されておらず係員に「タオルを出してほしい」と要求、ゴルフ場側は例年このトーナメントではバスタオルが数多く紛失するため、日本女子プロゴルフ協会（LPGA）の了解の下にトーナメント期間中はタオルを常備しないことになっていた。

これを知らない選手の笠がコースの風呂場にタオルが置いてないことに腹を立て、スタッフに対して「何で置いてないのか」と食ってかかり、「タオルを出せ」「出せない」の押し問答のあげく、コースの副支配人に対して「頭が固い。死ね」と暴言を吐いたらしい。

この件については自分のサイトに10月31日付けで、会場で関係者に対して不適切な発言をした当事者であることを認め、謝罪文を掲載し当面の間「ツアーへの出場は自粛させていただきます」と公表しました。

男女プロゴルファーに限らず一般ゴルファーもマナーに欠ける行為を平気でする人が多くなってきました。ゴルフ場の風呂や洗面所に常備しているタオルの紛失はどこのゴルフ場も頭の痛い問題です。

とくに洗面所に置いてあるフェースタオルは汗拭きにいいのかポケットに1、2枚忍ばせて行く人が多い。ゴルフ場によっては洗面所にフェースタオルの代わりに手拭き用のペーパータオルに代えているところがあります。

夏場の暑いプレーの場合、汗拭き用のフェースタオルを忘れて、ゴルフ場のフェースタオルを拝借ということですが、この持ち出したタオルは不思議と戻ってきません。

以前、当クラブでは持ち出しお断りより、「汗拭きタオルを忘れた方は、持ち出しOK、ただし必ず元に戻してください」と張り紙をしたことがありましたが、残念ながら回収率は低く、結局「持ち出し厳禁」の張り紙に代えました。

女子ツアーを開催しているクラブの支配人から聞いたことがあります、「女子プロの行儀の悪さには壁壁しますよ。脱衣場のタオルは濡れたまま、そこら中に使い放し。バスタオルもタオル入れに戻さず平気で床に投げ捨てられ、女性の脱衣場とは思えませんよ。」と嘆いていたのを覚えています。

こうした不始末に対してマスターズGCも女子プロゴルフ協会と相談しタオルを出さないことを伝え了承を得ていたという。笠の不適切発言の前に女子プロ全員がもう少し社会人としての自覚を持ち常識的行動をするように望みたい。

ゴルフはスポーツか遊びか

ゴルフはれっきとしたスポーツです。と強く言い切れますか？ゴルフをするのにゴルフ場利用税という理不尽な税金を取られるのはなぜか考えたことがありますか。ゴルフがスポーツというより遊びととらえられているためではないでしょうか。

そのひとつにプレー中の喫煙を容認していること。たばこを喫いながらプレーするスポーツがあるだろうか。野球で守備についている内野手や外野手がたばこを喫いながらボールが飛んでくるのを待っていることなどありえませんか。

相撲の土俵下で待つ力士が一服しているだろうか。サッカーのゴールキーパーがたばこを喫って守っているだろうか。

スポーツで競技中に喫煙を認められているのはゴルフだけです。ゴルフは喫煙しながらできるスポーツだと思ってる人は多いが、喫煙しないゴルファーから見ると、ゴルフというスポーツを冒涇しているように思います。

たばこ以外にお酒を飲んでプレーすることができるスポーツはゴルフだけです。スタート前に一杯引っ掛けて、コース売店で一杯、昼食時に一杯というように酒を飲んでプレーすることができるのがゴルフです。さすがにプロ競技や権威ある公式アマチュア競技では許されてませんが、プライベートラウンドやクラブ競技では禁止を謳ってるゴルフ場はありません。

こうしたたばこやアルコールをプレー中に嗜（たしな）むことができるゴルフがスポーツではなく遊びだといわれる所以です。ゴルフ場利用税撤廃を要望すれど「所詮ゴルフはスポーツでなく担税能力のある金持ちの遊びだ」と思われており2020年度も利用税撤廃は見送られました。

ゴルフは知的スポーツ

ゴルフは体力と精神力そして忍耐力が問われるスポーツです。とくにゴルフは体力以外に知的スポーツといわれるように精神力と忍耐力なくしてゴルフの上達は望めません。

18ホールという長丁場では必ずミスが出ます。うまく行くよりミスが多くミスをいかに減らすかがスコアメイクのポイントです。

18ホールの長丁場はミスしても取り戻せるチャンスは必ず訪れますから諦めずに粘り強くプレーをして行くことです。

ゴルフは1番ホールをティーオフした時からいかなる場において、人間としていかに処すべきかを問われる場面に遭遇します。こうした場面をいかに対処しつつ最小のスコアにまとめて行くかが問われるスポーツでもあります。

ゴルフマナー評論家・鈴木康之氏は「公明正大」「挑戦と冷静」「思いやり」「感謝」「社交」「自律」「自己責任」「向上意欲」「計画性」そして幾多の困難、失敗、挫折、恥の経験など日常生活が投影、凝縮されたものがゴルフだといいます。

だからこそゴルフは面白いのだし、また難しく奥が深いのです。

ゴルフは難しく奥行きが広い

ゴルフはひじょうに特殊なスポーツだと思います。いろいろな環境や条件に影響され左右される競技です。まずは天候。晴れ、雨、寒い、暑い、強風、無風といった気象条件に最も影響を受けるスポーツです。プレーするコースの違い、アップダウンがきつい、フラット、距離が長い、短い、山岳コース、丘陵コース、シーサイドといったプレーするコースの違い。さらにはプレーする同伴競技者といった環境や条件がその都度変わるのがゴルフです。

さらには1番ホールのティーショットから18番ホールの最終パットまで打ち放たれたボールの状況が1打ごとによって変わり、スコアメイクのためにプレーヤー自身はその都度判断し実行して行く孤独との闘い。

野球やサッカーのようにチームプレーではなく、完全な個人プレーであり、野球やサッカーのように相手のプレーに対して瞬時に判断して対応するスポーツではありません。ゴルフというスポーツは1打、1打の間合いが長く次打に行くまでの時間が長く考える時間が長すぎて逆にミスすることも多い。

ゴルフとはいかにミスをしないかを競うスポーツだといっても過言ではありません。ナイスショットした後につまらぬミスショットをしたり、ナイスパー、ナイスバーディのあとにボギーやダブルボギーを叩いてしまう、まさに好事魔多しといったことがよく起こります。ゴルフほど不安と緊張に左右されるスポーツは他にないと思います。だからこそゴルフは難しく奥行きが広い無限の面白さをもつスポーツなのです。

ゴルフ場は地球温暖化防止に寄与してます

オーストラリアの森林火災が未だ鎮火せずオーストラリアの森林面積、数千万ヘクタールが焼失し日本全土の半分が焼失されたと報道されています。少し前には1000万ヘクタール超で北海道の面積を超すといわれてましたが……。

オーストラリアの山火事は高温と乾燥に加えて雨が降らないことが大きな原因です。報道によると昨年9月に発生した森林火災が全土に飛び火して半年を経た現在も衰えるどころか拡大していつてるそうです。森林火災による生態系の変化やさらなる気象異常が懸念されます。

これも地球温暖化による影響でしょう。地球温暖化の元凶といわれている二酸化炭素（CO₂）の排出削減を真剣に考えなければなりません。雪の降らない暖冬はゴルファーにとっては有難いことですが、地球規模で考えるといかに雪の降らない暖冬が異常であるかを真剣に考えなければなりません。

ゴルフ場は緑の再生、即ち地球温暖化防止に大きく役立っていることをご存知でしょうか？九州大学の懸 和一名誉教授は、ゴルフ場の緑が営む光合成を基礎にCO₂収支の視点から大気の浄化・温暖化防止にゴルフ場が大きく寄与していると、日本芝草学会で詳細なデータを基に研究成果を発表しています。

これによると全国のゴルフ場の芝生や森林などの緑によるCO₂の総吸収固定量は年間460万トンになるそうです。広大な敷地でゴルフをすることに後ろめたさを感じているゴルファーもおられるかもしれませんが、ゴルフ場は大気の浄化、地球温暖化防止に大きく寄与していることを認識して胸をはってゴルフをお楽しみください。

飛距離制限をR&AとUSGAが検討し始める

ゴルフルールの総本山であるR&AとUSGAが「飛距離に対する考察」と題するレポートを発表しました。

クラブやボールの技術進化で年々飛距離が伸び、既存コースでは対応できなくなっていることに対する危機感から飛距離規制を真剣に考えだしたようです。

ゴルフ道具の技術進化で飛距離が伸び、米PGAツアーでは7500ヤードが常識化しており、このまま行けば8000ヤード超のコースでなければ対応し切れなくなってきました。

米国のような広い国でさえ、これ以上距離を伸ばすことは難しい上、さらに芝や農薬などの管理維持のためのコスト増の負担、プレーに時間がかかり過ぎるなど問題は多いし何より多くのゴルファーはそんな長い距離のコースを求めていないという現実気付いたようです。

クラブの規制や用品のルール改定をすることにより飛距離制限を検討して行くのでしょう。私もゴルフ仲間とのゴルフ談義でいつも話しているのは、野球界のようにアマチュアとプロで金属バットと木製バットの使用制限しているように、ゴルフ界も野球界に倣ってプロはパーシモンのウッドクラブの使用を義務付ければ良いと思います。

またプレーのクラブ本数も最大14本は不用、7本くらいに本数制限をすれば道具に頼ったスコアメイクではなく1本のショートアイアンをテクニックで使い分ける真のワザによるスコアを競う本来の競技になると思います。昔よく「ゴルフは金持ちのスポーツ」だと揶揄されましたが、まさしくその通りで新しいクラブや飛んで止まるボールが出れば即買える余裕のある者が有利な訳ですから、道具に頼らないテクニックを競うようなゴルフになればと思います。